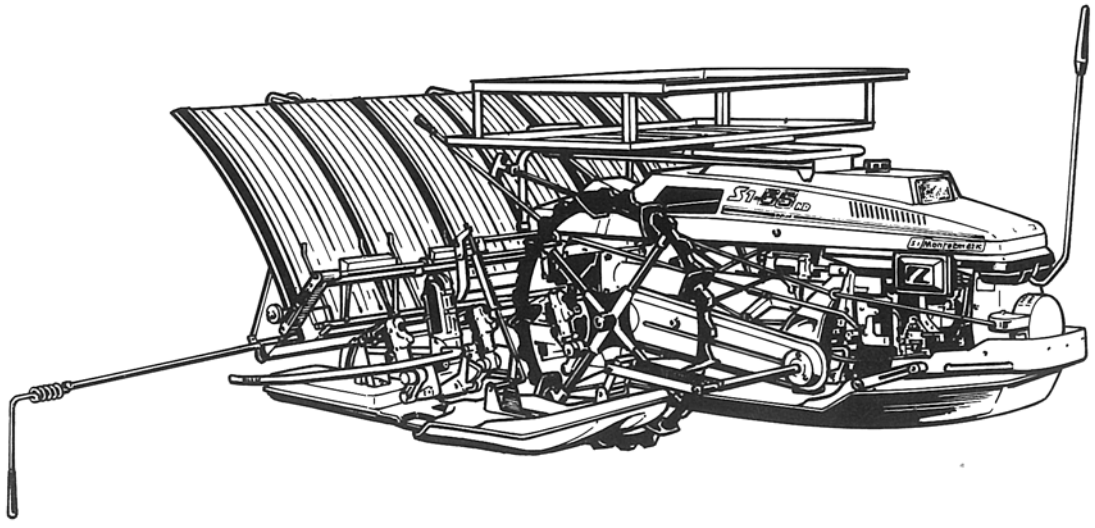
クボタ田植機

取扱説明書

RAINBOW

S1-65HD



P-1864

安全宣言

安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

専門用語の説明

- **主クラッチレバー**……エンジンからの動力伝達を**“入”“切”**するレバーです。
- **植付クラッチレバー**……機体の**“上昇”“下降”“固定”**及び植付部の作動・停止を操作するレバーです。
- **操向クラッチレバー**……機体を旋回させるときに，旋回したい側のレバーを握ります。
- **変速レバー**……**“移動”“植付”“中立”“後進”**に変速するためのレバーです。
- **スロットルレバー**……エンジンの回転を調節します。
- **後ろマーカ**……植付作業中に隣接条間を合わすための目標となる線を引くための部分です。
- **センサモドシレバー**……走行時，機体が傾いている場合にこのレバーを操作して水平に戻します。
- **フロート**……ほ場表面に浮き，機体を支える部分です。
- **ナエキーパ**……苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止するための金具です。
- **しゅう動板ガード**……植付部のしゅう動板があぜなどに当たり変形するのを防止するパイプです。
- **安全クラッチ**……植付爪に障害物が詰まったとき，動力伝達ギヤの破損を防止するために，植付部への動力を断つ装置です。
- **ボンネット**……機体前部にあるエンジンを覆っている樹脂のカバーです。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警 告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注 意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重 要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

サービスと保証について …… 1

各部の名称と装置の取扱い …… 2

各部の名称 …… 2
装置の取扱い …… 3
主クラッチレバー …… 4
植付けクラッチレバー …… 4
操向クラッチレバー …… 4
変速レバー …… 4
エンジンスイッチ …… 4
スロットルレバー …… 4
ライトスイッチ …… 5
マーカ操作レバー …… 5
油圧感度調節レバー …… 5
予備苗のせ台 …… 5
ハンドル高さの調節 …… 6
取扱い（作業）のポイント …… 6
植付け作業の手順 …… 6
旋回のしかたとマーカの使い方 …… 6

運転前の点検について …… 7

始動前の給油と注油 …… 7
グリース …… 8
オイル …… 8

上手な運転のしかた …… 11

エンジンの始動と停止 …… 11
始動のしかた …… 11
停止のしかた …… 12
ならし運転 …… 12
移動走行のしかた …… 12
発進のしかた …… 12
停車のしかた …… 13
トラックなどへの積込み・積降ろし … 13
積込み・積降ろしのしかた …… 13
ほ場への出入り …… 14
ほ場への出入りあぜごえのしかた …… 14

上手な植付けのしかた …… 15

田植作業ができるほ場と苗の条件 …… 15
ほ場条件 …… 15
苗条件 …… 16
田植作業前の準備 …… 17
株数の決定と調節 …… 17
苗の使用量 …… 17
横送り量の調節 …… 18
植付作業のしかた …… 18
植付け作業の順序と方法 …… 18
ローリング機構 …… 19
安全クラッチ …… 19
苗の補給 …… 19
スライド式予備苗のせ台の使い方 …… 20
枕地のとり方 …… 20
旋回のしかたとマーカの使い方 …… 20
あぜぎわの植付け …… 22
植付け作業中の調節 …… 23
苗ステーの調節 …… 25
苗ガイドの取外し方 …… 25
ピタリックスアームの取外し方 …… 26
整地板の調節 …… 26
バランスウエイト …… 26

田植機の簡単な手入れと処置 … 27

各部の点検と交換 …… 27
点検・注油・調整一覧表 …… 27
ボンネットの開けかた …… 28
作業シーズン前後のメンテナンス …… 28
スパークプラグの掃除 …… 28
グリースの補給 …… 29
各部の調整 …… 29
主クラッチの調整 …… 29
植付けクラッチの調整 …… 30
油圧ワイヤの調整 …… 30
操向クラッチの調整 …… 30
機体上昇けん制金具の調整 …… 30
ローリングの調整 …… 31
センサロッドの調節 …… 31
毎日作業前 …… 31
マフラ部の清掃 …… 31

10時間毎 …… 31
エンジンオイルの点検 …… 31
50時間毎 …… 31
エンジンオイルの交換 …… 31
ミッションオイルの交換 …… 32
エアークリーナエレメントの掃除 …… 32
100時間毎 …… 32
燃料フィルタポットの掃除 …… 32
2年毎 …… 32
燃料パイプの点検 …… 32
都度の整備 …… 32
分解時にグリース補給 …… 32
植付け爪の交換 …… 33
長期格納時の手入れ …… 34
使用後の手入れ …… 34
長期格納時 …… 34
田植機の不調と処置 …… 35
付表 …… 38
主要諸元 …… 38
主な消耗品一覧表 …… 39
付属部品 …… 39
オプション部品 …… 40
クボタ純オイル …… 40

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠ 警告・⚠ 注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください。

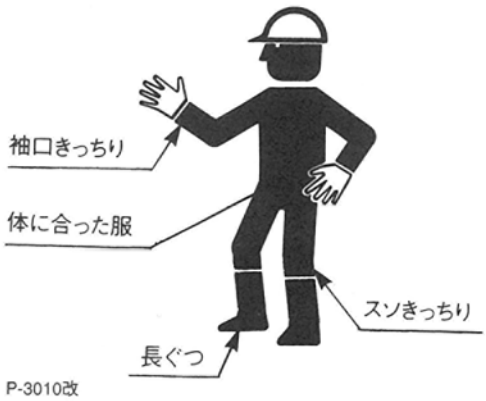
■安全に指示順序

- 本書および本機の警告，注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告，注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損，紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。

M-6215

■作業に合った服装および健康状態

- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
  たぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。
- 素足での作業は絶対にしないでください。
  安全な長ぐつなどを着用してください。
- 飲酒，過労などでの作業は危険ですのでしないでください。



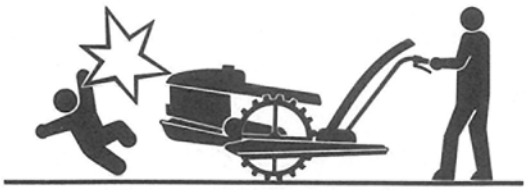
P-3010改

P-3009

⚠ 安全に作業するために

■子供に注意

- 点検・整備中および機械の移動時は，機械に子供を近づけないでください。
  いきなり駆動部をさわったりするなど，傷害事故の原因になります。

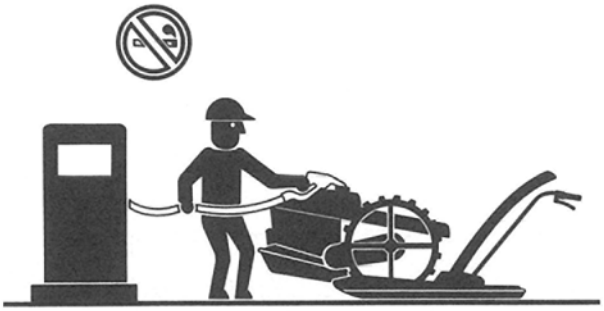


P-3031

■使用前の準備・点検

- 使用前には７頁の点検項目の点検を実施してください。異常があれば直してから作業してください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，各クラッチを切り，エンジンを止めてから行ってください。
- 燃料の補給はエンジンを止め，エンジンが冷えてから行ってください。
  火気厳禁です。
- 点検・調整などで取外した部品は必ず元の位置に取付けてから作業してください。
- 点検・調整などのときは，平たんな場所で機体を下げた状態にして作業してください。

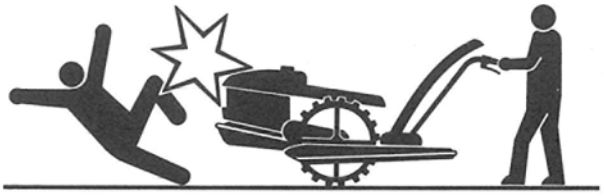
P-3017



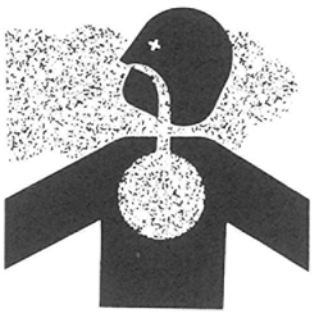
P-3032

■エンジンの始動

- 機械を動かす場合，周囲の安全に気をつけてください。
- エンジンを始動するときは，各クラッチを**“切”**にし，変速を**“中立”**にして行ってください。
- スタータハンドルを引張るときは，手が人や物に当らないよう注意してください。
- エンジンの始動や機械の発進のときは周囲の安全を十分に確認し合図をして，人を機械に近づけないでください。
- 屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気が十分入るようにしてください。



P-3033

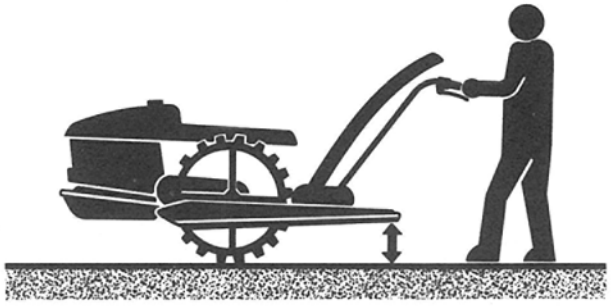


F-8842

■走行運転

- この機械は一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックに積むなど別の運送方法で移動してください。
- フロートと地面の間に十分な間隔をとり，機械が地面と接触しないよう走行してください。
- 初めて運転される方は，操作になれるまで低速で運転してください。
- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないでください。荷物はめんどうでも，別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 後ろマーカは必ず収納し，苗のせ台は機体中央の位置にして走行してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して，低速で発進してください。

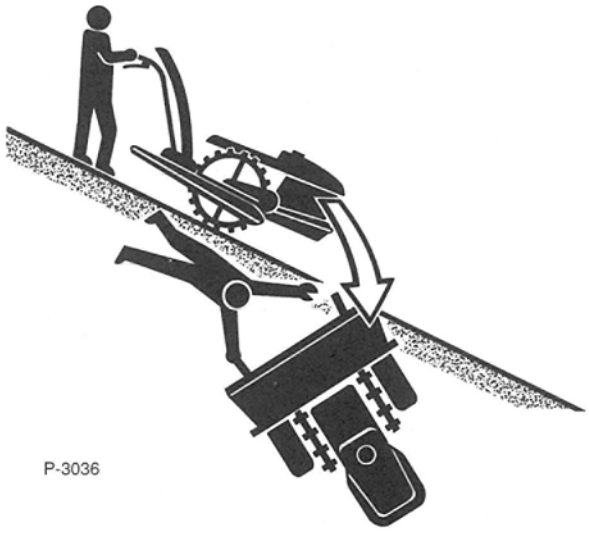
P-3034



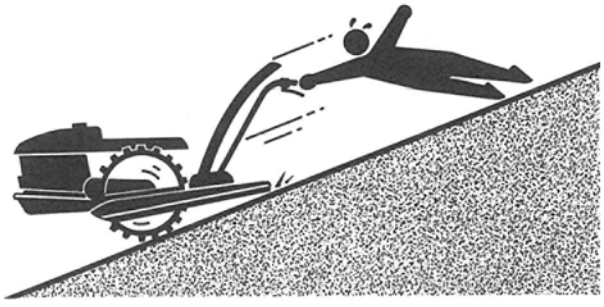
P-3035

■坂道走行

- 坂道では絶対に繰向クラッチレバーを操作しないでください。
  急旋回して大変危険です。
- 坂道では絶対に主クラッチレバーを操作しないでください。
  動力伝達が切れ，機械が暴走して大事故につながります。
- 坂道での駐・停車は行わないでください。
  やむをえず，駐・停車するときは，車輪に車止めをしてください。



P-3036

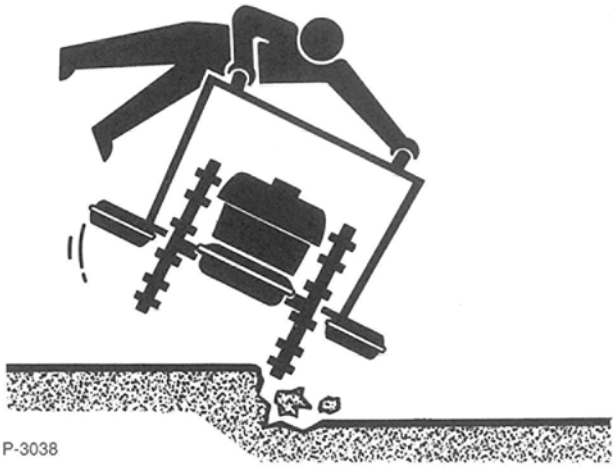


P-3037

⚠ 安全に作業するために

■農道の移動

- 機体を十分上げて，ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度を落として慎重に走行してください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 後ろマーカを折りたたみ，苗のせ台は機体中央位置で走行してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。



P-3038

■ほ場での作業

- 異常に気づいたら，すぐに各クラッチを切りエンジンを止めてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- 植付爪にはさまった小石などを除くときは，必ず主クラッチを切りエンジンを止めてから行ってください。
- スタータハンドルを引くときは，片手で機械を支えてバランスをとってください。
- 植付作業時は，ハンドルを両手で握り，決して片手運転はしないでください。
- あぜ際で旋回するときは，あぜの周囲の人や物に十分注意を払ってください。
- 次のような場合は植付部を停止させてください。
  - ほ場内外へ移動するとき
  - 旋回するとき
  - 苗のせ台に苗を補給するとき

  （このときは主クラッチも切ってください）
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近づけたりしないでください。
- ほ場への出入りの場合は，機体のバランスとスピードに十分注意して，必要な場合にはアユミ板を使ってください。また，途中で主クラッチを切ったり，操向クラッチを操作しないでください。転倒・転落事故のおそれがあります。

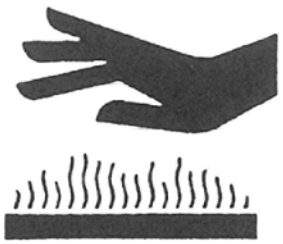
J-2717

J-2713

P-3039

■機械から離れるときおよび走行，作業途中の駐車・点検

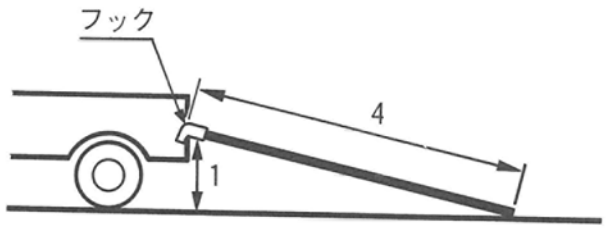
- 作業時，機械から離れたり，点検したりするときは，各クラッチを切りエンジンを止めてください。
- やけどのおそれがあるので，エンジン・マフラ・排気管などの高温部に触れないよう注意してください。



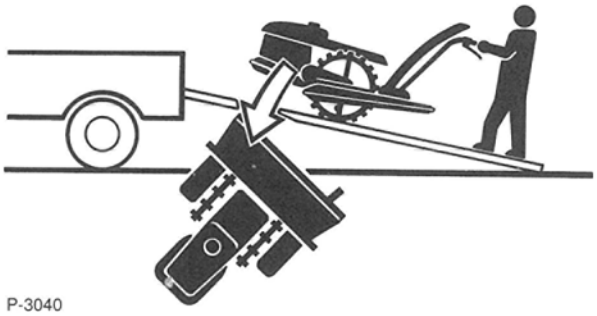
J-2713

■トラックなどへの積込み・積降ろし

- 積込み・積降ろしは平たんな場所で行い，必ず前進で積込み，後進で積降ろしてください。
- 積込み・積降ろしを開始する前に，トラックのサイドブレーキがかかっているかを確認してください。
- アユミ板は十分に強く滑り止めがあり，トラックの荷台高さ“1”に対し，アユミ板の長さ“4”以上のものを使用してください。
- アユミ板の途中では，絶対に主クラッチを切らないでください。機体が急降下し，大変危険です。
- アユミ板の途中では，絶対に操向クラッチを操作しないでください。機体が急旋回し，転倒して大事故につながります。



P-3026

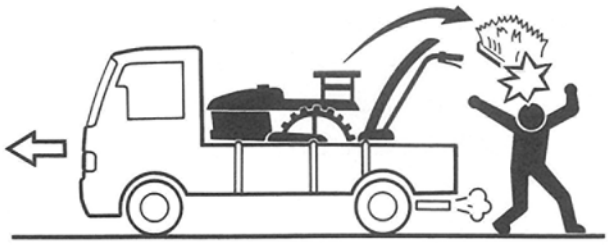


P-3040

⚠ 安全に作業するために

■トラックなどでの運搬

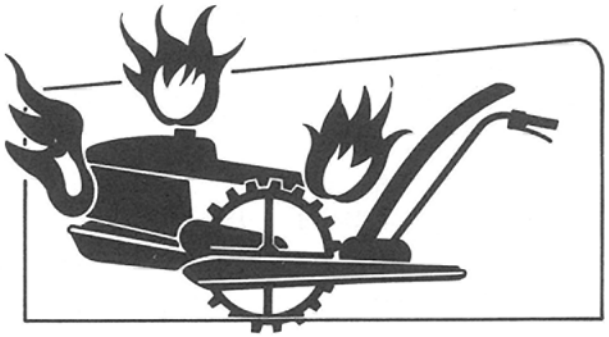
- トラックの荷台上では，機体を下げた状態で運搬してください。
- 運搬するときは，必ず機体をロープで固定してください。
- 搬送中は，不必要な急発進・急停止・急ハンドルはしないでください。
- 苗のせ台・予備苗台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。



P-3041

■使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行ってください。
- 格納するときは，平たんな場所で機体を下げた状態で置いてください。
- シートなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分が十分冷えてからにしてください。火災の原因になります。
- 機械の改造は絶対にしないでください。故障や事故の原因になり大変危険です。
- 田植機を人に貸すときは，取扱説明書を読んでいただくとともに，安全な作業ができるよう十分に指導してあげてください。
- 夜間は暗くて危険なので作業しないでください。



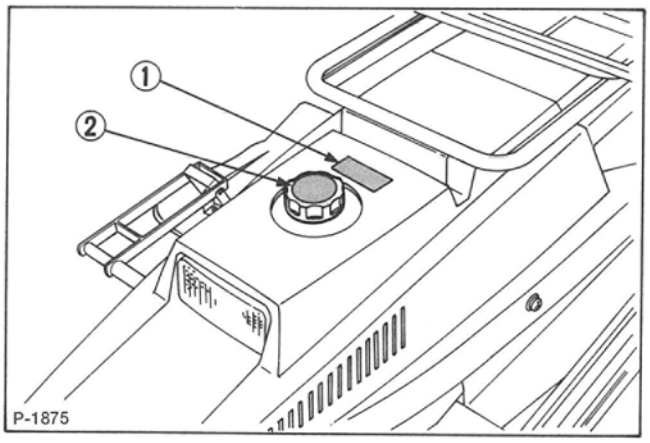
P-3042

2. ⚠表示ラベルと貼付位置

① 品番　PC200-8911-1

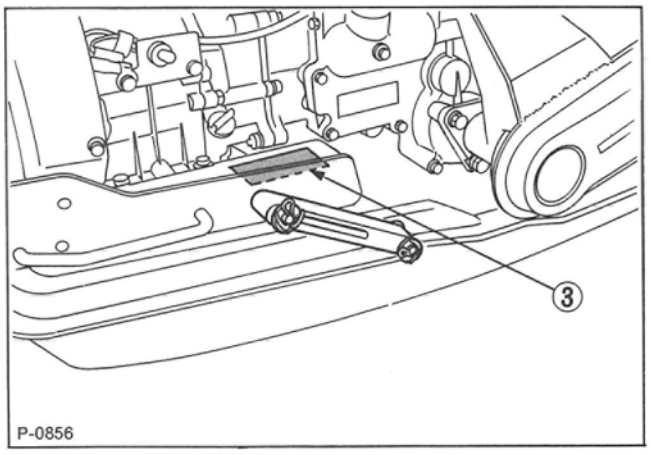
⚠ 注意

中に回転物・高温部がありケガをするおそれがあるので、点検・調整などでボンネットを取外す時は、エンジンを必ず止めること。点検・調整後はボンネットを必ず取付けること。



② 品番　50080-1689-2

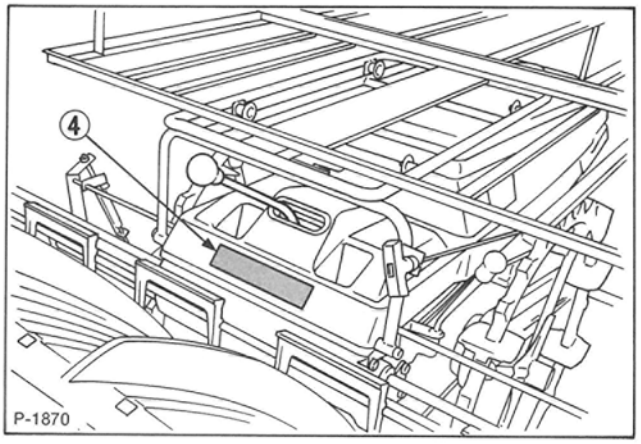
③ 品番　52320-3159-1



④ 品番　PC200-8982-1

⚠ 注意

1. 安全作業のため、取扱説明書をよく読むこと。
2. ガス中毒防止のため、屋内では換気をよくすること。
3. この機械は公道走行できないため、移動はトラックなどにのせて運搬のこと。
4. けが防止のため、機械から離れるとき、および各部の点検・調整などのときは各クラッチを切り、エンジンを必ず止めること。
5. 夜間は暗くて危険なので、作業しないこと。
6. 転落・転倒事故防止のため、車への積み降ろし、あぜ越えなど急な傾斜地でのクラッチ操作は絶対にしないこと、また、傾斜地や不安定な場所での駐・停車はしないこと。
7. 安全クラッチが作動（ガッガッという大きな異音）したら、すぐに主クラッチを切り、エンジンを止めて、植付爪先端の障害物を取り除くこと。



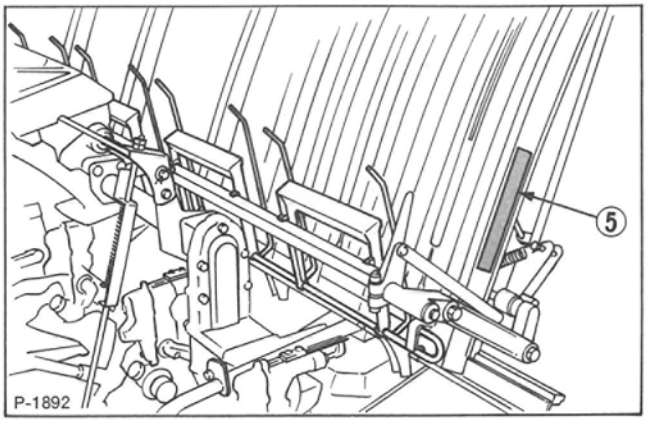
⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

⑤ 品番　PA401-8943-1

⚠ 警 告

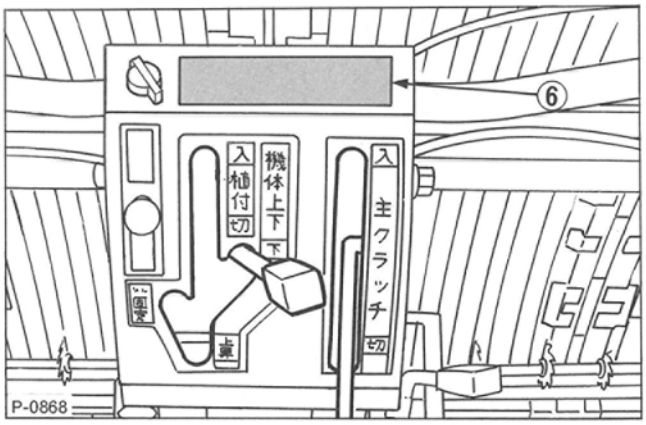
植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので、植付爪の交換 調整 清掃、苗取り出し口の異物の除去、残り苗の取り出しなどを行うときは、エンジンを必ず止めること。



⑥ 品番　41332-8919-2

⚠注意

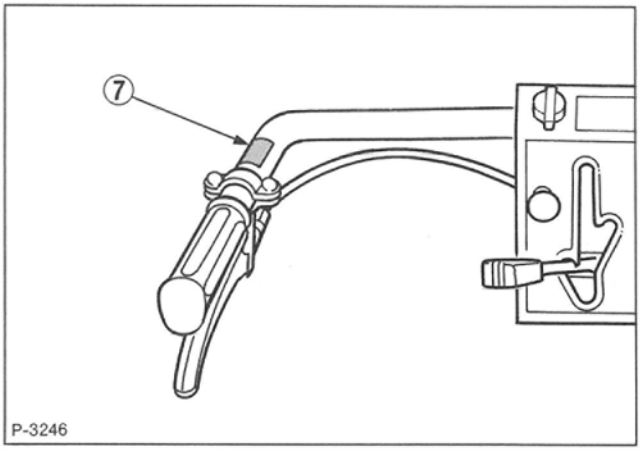
1. エンジンを始動するときは、各クラッチを切り、変速を中立にして行うこと。
2. 機体停止状態で植付爪を回すときは、必ず変速を中立にして油圧（植付）レバーを入にして操作すること。
3. 油圧を固定するときは、油圧（植付）レバーを固定にすること。



⑦ 品番　PC400-8944-1

⚠注意

移動走行および搬送のときには必ず左右マーカを収納すること。



3．⚠表示ラベルの手入れ

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

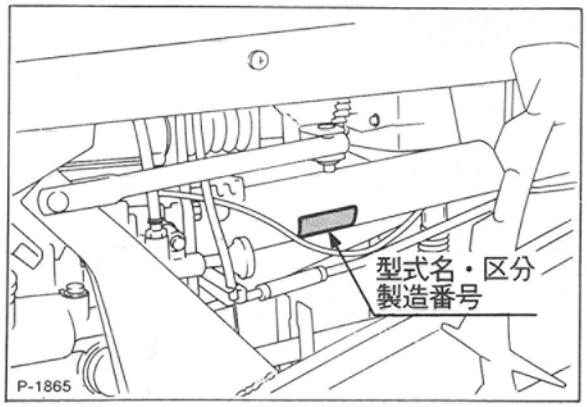
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1)型式名・区分と製造番号
　　(2)搭載機関のエンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

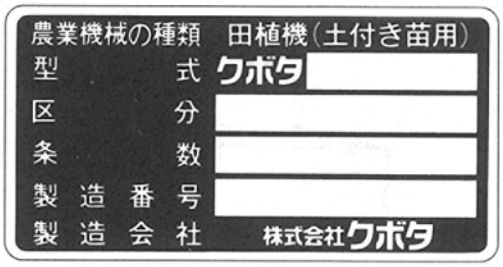
警　告

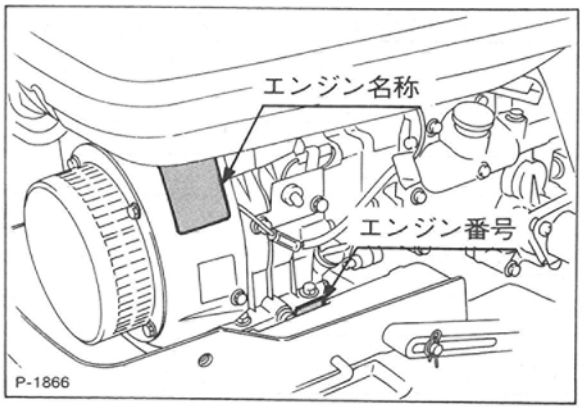
＊機械の改造は危険ですので,改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定適合番号

クボタS_1-65HD …… 1403001

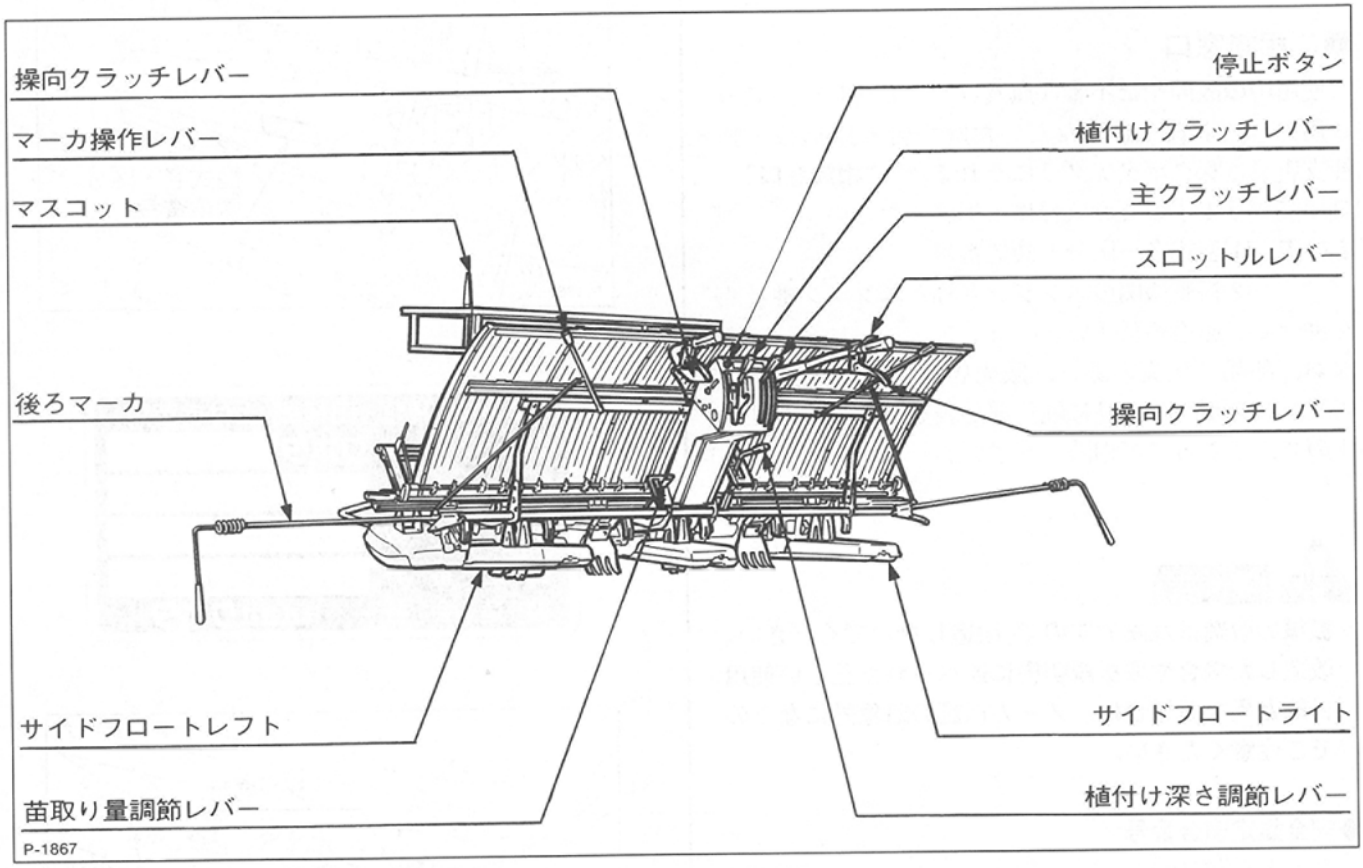




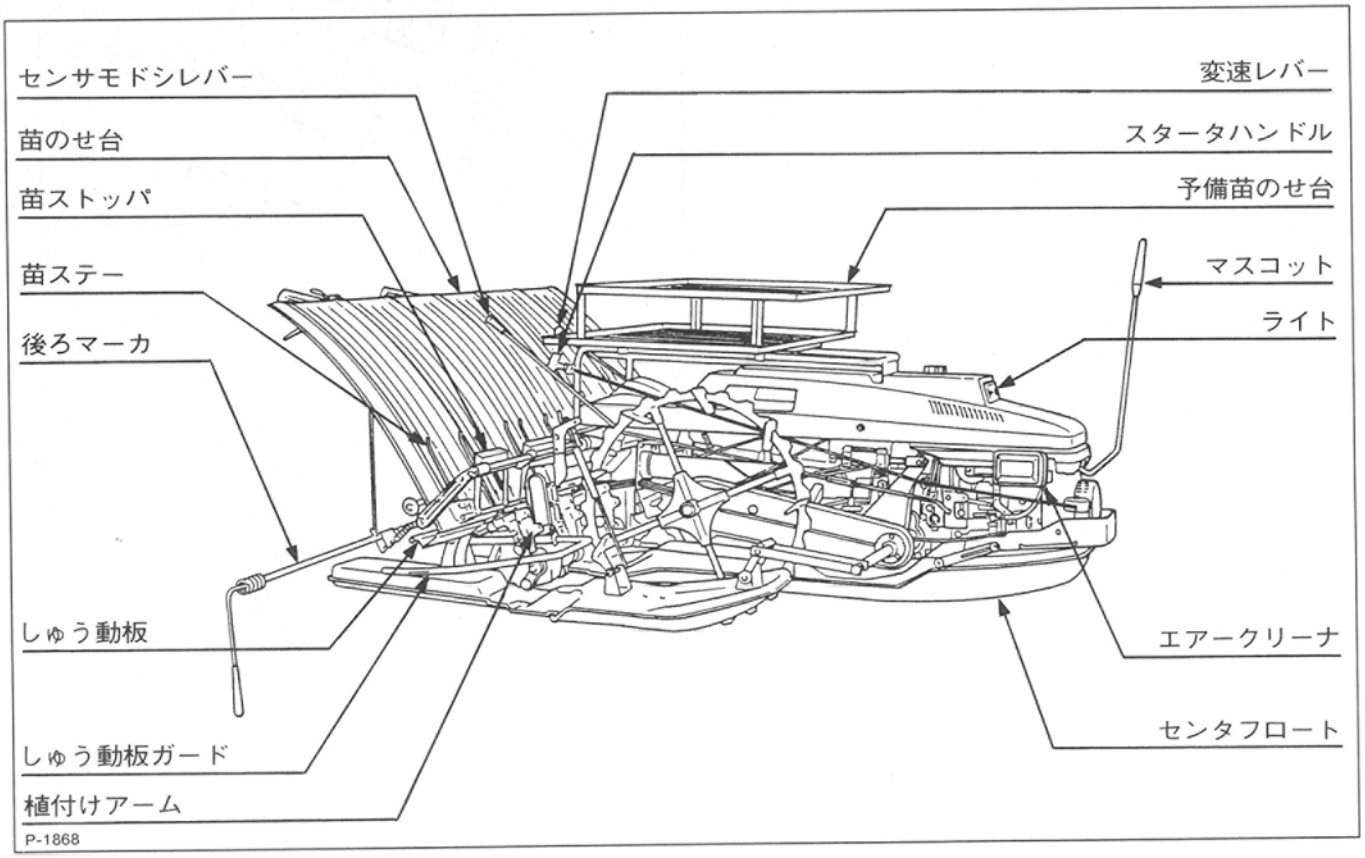


各部の名称と装置の取扱い

各部の名称

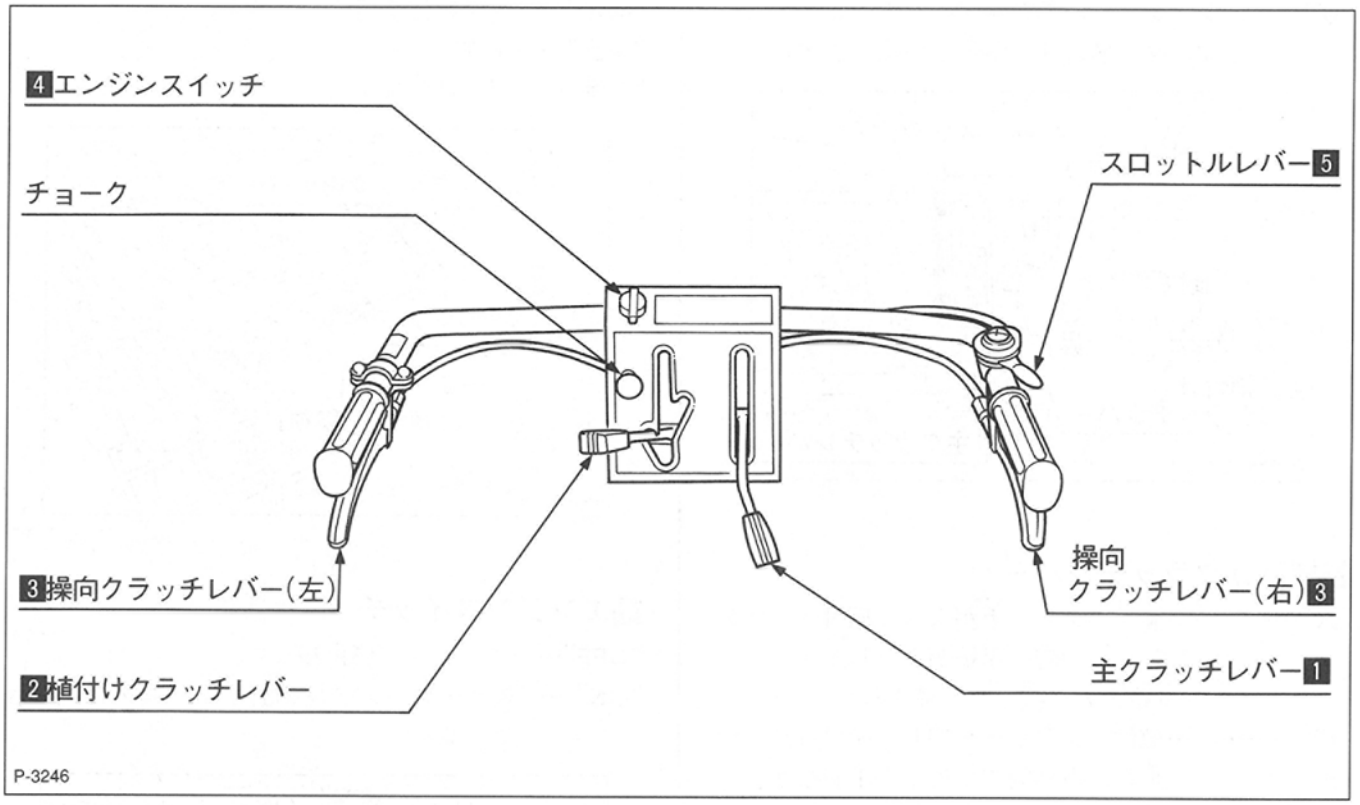


P-1867



P-1868

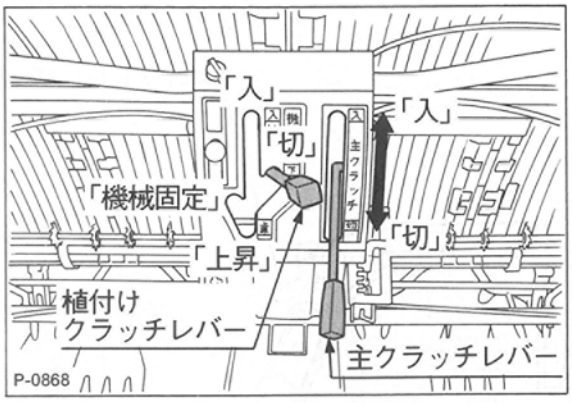
装置の取扱い



1主クラッチレバー……4
2植付けクラッチレバー……4
3操向クラッチレバー(右)……4
3操向クラッチレバー(左)……4
4エンジンスイッチ……4
5スロットルレバー……4

1主クラッチレバー

“入”……エンジンからの動力が伝達され走行します。
“切”……エンジンからの動力が切れ，走行しなくなります。又，植付部の駆動も停止します。



2植付けクラッチレバー

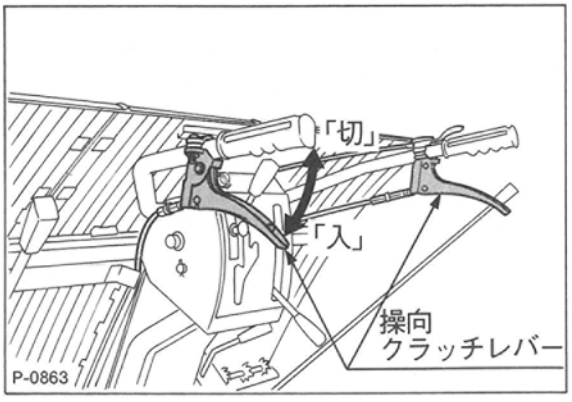
“入”……植付けクラッチが入って植付部が作動し，自動的に車輪が上下します。
（路上では機体が下降する）
“切”……植付けクラッチが切れて植付け部が停止し，自動的に車輪が上下します。
（路上では機体が下降する）
“機体固定”……植付部は停止し，機体は固定されます。
“上昇”……植付け部は停止し，機体は上昇します。

重　要

＊移動走行・あぜ越えは，上昇後“機体固定”又は“上昇”で使用してください。

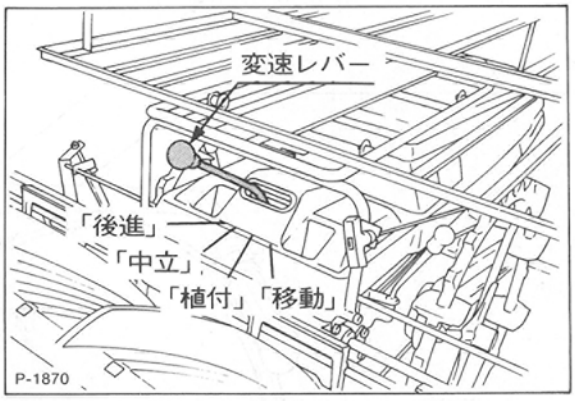
3操向クラッチレバー

“入”……左側を握ると左に旋回し，右側を握ると右に旋回します。また，両方を同時に握ると，両車輪共止まります。
“切”……車輪に伝達している動力が切れて，車輪が止まります。



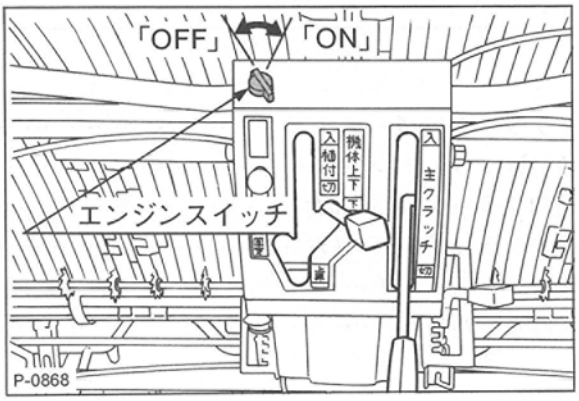
■変速レバー

“移動”……移動走行用の速度です。
“植付”……植付け作業用の速度です。
“中立”……中立。
“後進”……バックします。



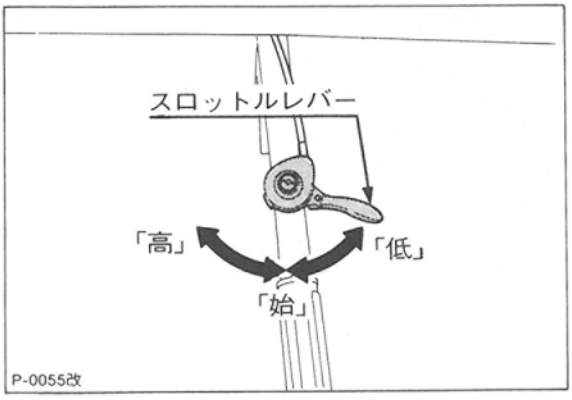
4エンジンスイッチ

“OFF”……エンジンが停止します。
“ON”……スタータハンドルを引けば，エンジンが始動します。



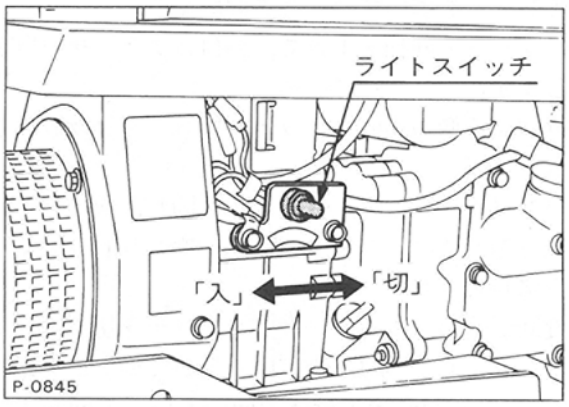
5スロットルレバー

“高”……エンジン回転が上がります。
“始”……エンジンを始動する位置。
“低”……エンジン回転が下がります。



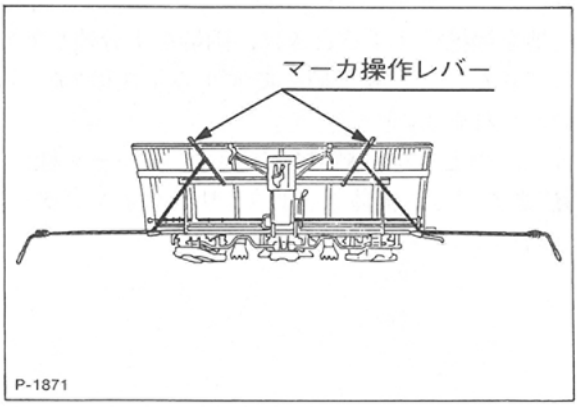
■ライトスイッチ

“入”……ライトが点灯します。
“切”……ライトが消灯します。



■マーカ操作レバー

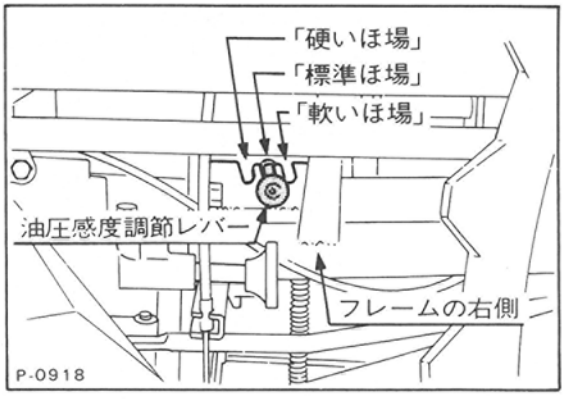
ハンドルの左右両側についているマーカ操作レバーを外側に倒すとマーカが倒れます。なお，手元に引くと収納できます。



■油圧感度調節レバー

ほ場の状態に合わせて，油圧感度調節レバーのセット位置を選択してください。

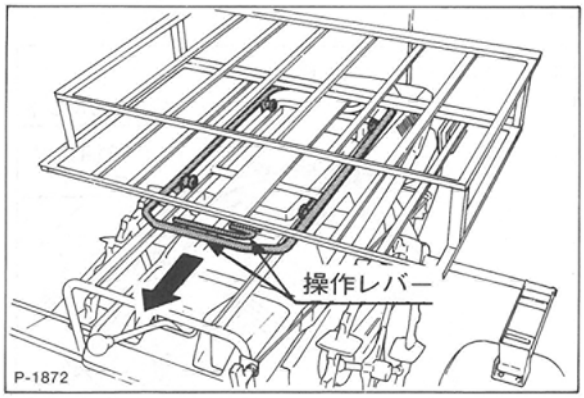
“標準ほ場”……標準ほ場
“硬いほ場”……●耕うん，代かきが十分でないほ場
　　●ほ場の表面が硬すぎるほ場
“軟いほ場”……ほ場の表面が軟かすぎるほ場



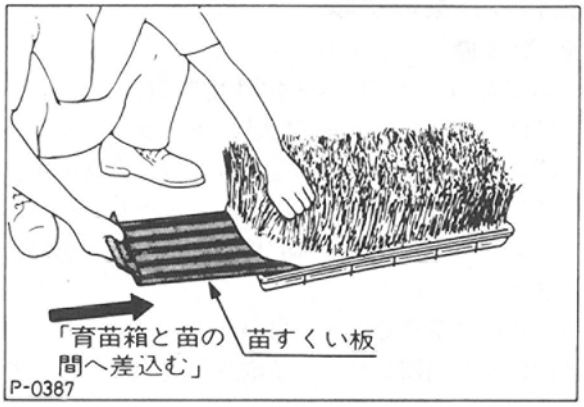
■予備苗のせ台

長いほ場で作業するときは，途中で苗補給が便利なように，予備苗のせ台に苗を積んでいくことができます。予備苗のせ台の苗を，苗のせ台に移す場合は，次の要領で行ないます。

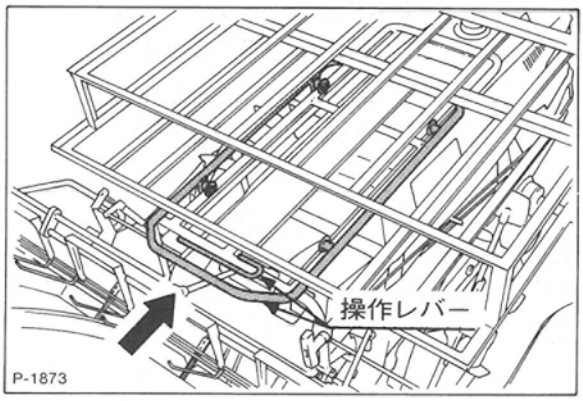
❶操作レバーを握り予備苗のせ台を手前に引張ります。



❷苗をのせる。苗すくい板に苗を移してのせると作業能率が上ります。
（苗すくい板はオプション部品になっておりますので必要な枚数を販売店でご購入ください）



❸再び操作レバーを握り，予備苗のせ台を前方に押してください。

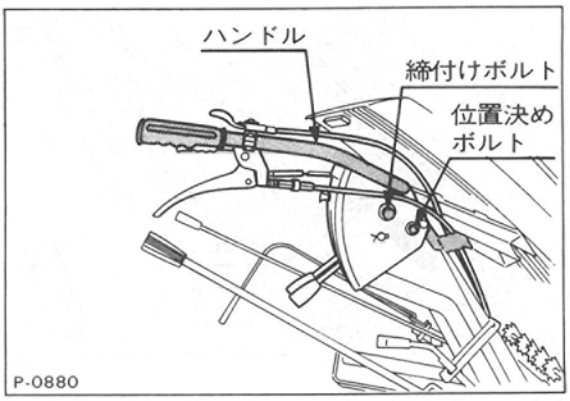


■ハンドル高さの調節

締付けボルトをゆるめ，左右のハンドルをいっしょに上下させ，使いやすい高さに調節し，ボルトを締付けて固定してください。

重　要

＊左右のハンドルは，同じ高さになるようにしてください。



取扱い(作業)のポイント

■植付け作業の手順

◆植付け準備

❶ほ場に入り，変速レバーを**“中立”**にします。
❷植付けクラッチレバーを**“入”**，主クラッチレバーを**“入”**にし，苗のせ台を右端又は左端に寄せます。
❸縦送り(ホイル)作動直後に主クラッチレバー及び植付けクラッチレバーを**“切”**にし，植付け爪を停止させます。
❹苗のせ台に苗をていねいにのせます。
❺植付け深さ調節レバー・苗取り量調節レバーを希望する位置にセットします。

◆植付け

❻変速レバーを**“植付”**位置にセットします。
❼植付けクラッチレバーを**“入”**にします。
❽エンジン回転を**“高”**にして，主クラッチレバーを**“入”**にし，植付けを開始します。
❾マーカを下ろします。

◆植付け中止

❿植付けを止めるときは，植付けクラッチレバーを**“切”**にして行なってください。

■旋回のしかたとマーカの使い方

田植機に慣れないうちは,次のことを守ってください。

❶旋回したいところで，主クラッチを**“切”**にし，マーカレバーを引いてマーカを収納する。
❷エンジンの回転を下げて，植付けクラッチを**“切”**にします。
❸旋回する側の操向クラッチを握り，主クラッチを入れます。
❹ハンドルを少し持上げながら旋回し，次の行程に機械を進めます。(マーカ跡が，機体の中心にくるようにします)
❺旋回が終わったら，一度主クラッチを切って，機体がまっすぐに**“すじ”**の方向に向いているかを確かめます。(旋回直後の機体の向いている方向が大切です)
❻植付けクラッチを**“入”**にし，マーカレバーを降ろします。
❼主クラッチを入れ,エンジン回転を徐々に上げます。

▶慣れないうちは小回りになり過ぎますので，ゆっくりと大きく旋回してください。
▶枕地を機械植えするときは，両端を十分残して旋回してください。６条植えですから１往復で3.6ｍに植えられます。
▶極深田のときは，植付けクラッチレバーを機体**“上昇”**まで引き，機体を上げて(リフティングターン)旋回します。

運転前の点検について

始動前の給油と注油

注　意

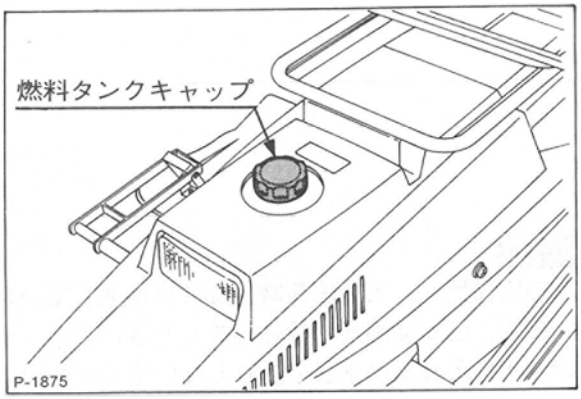
＊給油中エンジン停止。
＊給油中火気厳禁。（タバコを吸わないこと）
＊こぼれた燃料は完全にふき取る。
＊機体を最も低い位置にする。
＊機体を水平にして給油。

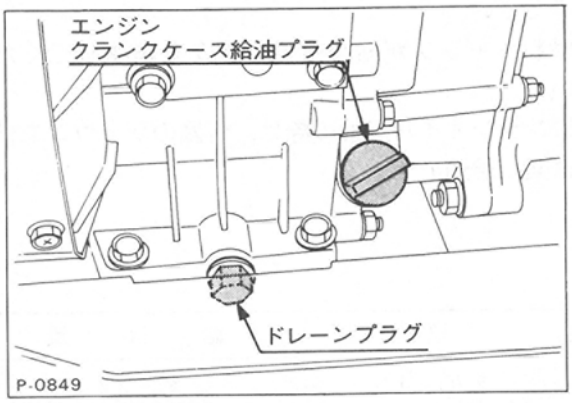
重　要

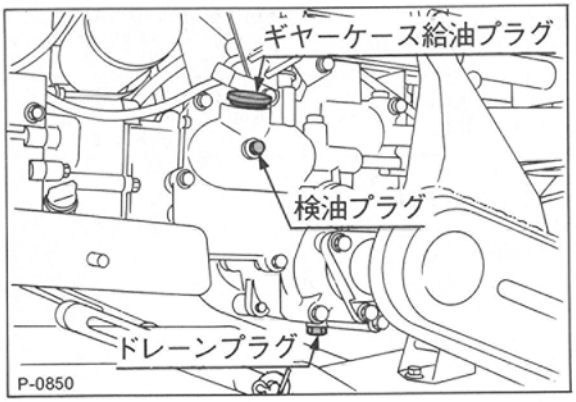
＊この田植機は，工場出荷時各部には給油していませんので，必ず使用前に給油してください。
オイルを入れないままで運転しないでください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊燃料キャップが締まっているかを確認してください。
＊エンジンオイル給油の際は，付属のジョウゴを使えば楽に給油できます。

毎日エンジン始動前に，下表の箇所に給・注油してください。

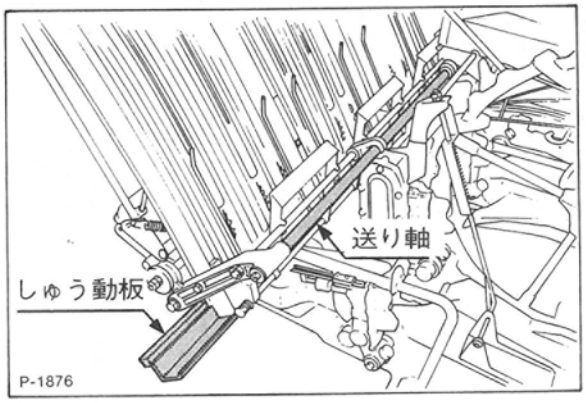
給　油　箇　所	種　類	給　油　量
燃料タンク	自動車用レギュラガソリン（無鉛）	約3.3ℓ（4～5時間植付け可能）
エンジンクランクケース	クボタ純オイル，G30（ガソリン･灯油エンジン用）	機体を水平状態にして給油口いっぱいまで...約0.55ℓ
ギヤーケース	クボタ純オイル，M80B（ミッション用）	機体を水平状態にして検油栓いっぱいまで...約3.2ℓ
しゅう動板	グリース，又はクボタ純オイル，G30（ガソリン･灯油エンジン用）	適　量
苗のせ台シュー		
送り軸		
①主クラッチレバー支点	クボタ純オイル，G30（ガソリン･灯油エンジン用）	適　量
②植付けクラッチレバー支点		
③油圧作動アーム支点		
④フロート揺動支点		
⑤リンク支点		
⑥変速レバー支点		
⑦変速ロッド連結部		
⑧縦送り連結部		
⑨車輪調節連結部		
⑩センサロッド支点及び連結部		
⑪操向クラッチレバー支点		
⑫各ワイヤ調節部		
⑬各ワイヤ及び各ワイヤ連結部		
⑭予備苗のせ台ローラ及び操作レバー支点		
⑮後ろマーカ支点及びレバー支点		
⑯バルブアーム関係		

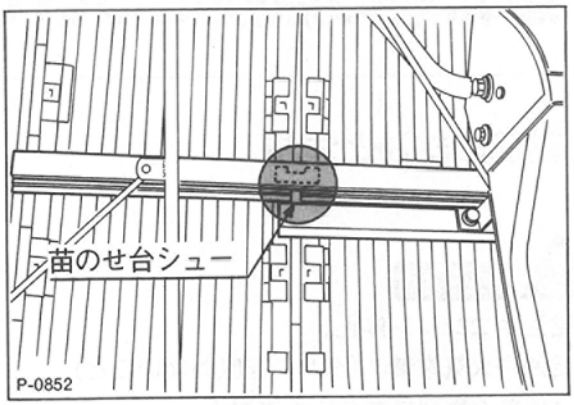

燃料タンクキャップ
P-1875


エンジン
クランクケース給油プラグ
ドレーンプラグ
P-0849

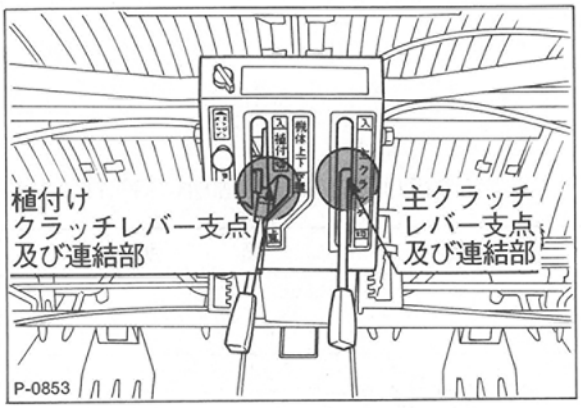

ギヤーケース給油プラグ
検油プラグ
ドレーンプラグ
P-0850

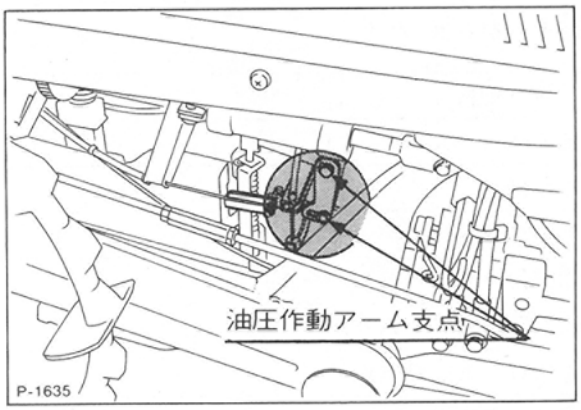
■グリース

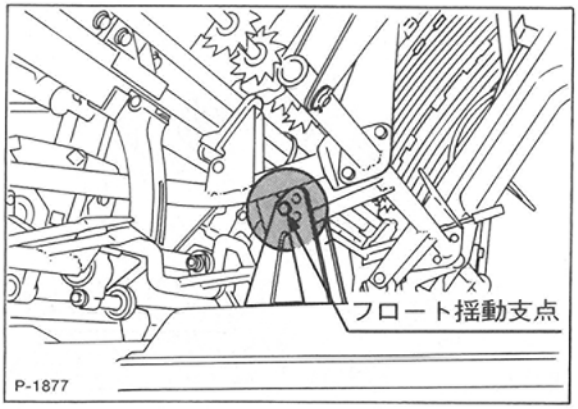

送り軸
しゅう動板
P-1876

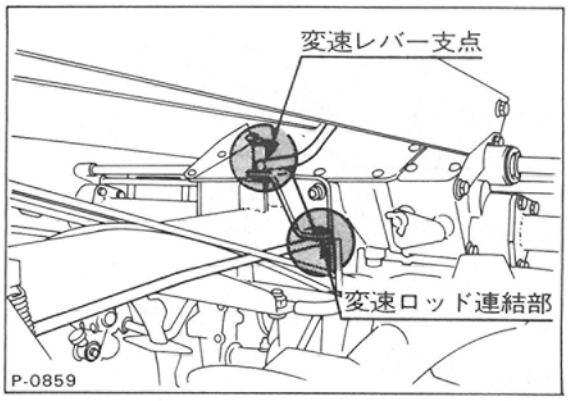

苗のせ台シュー
P-0852

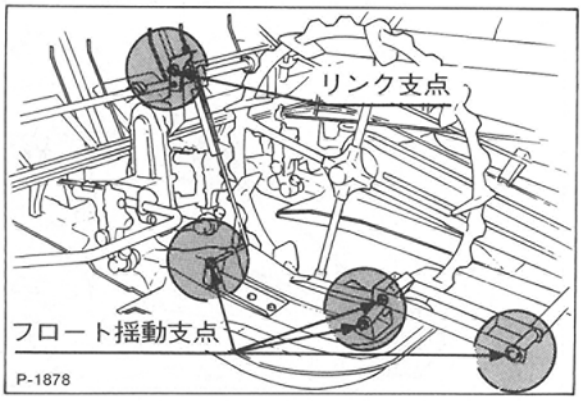
■オイル

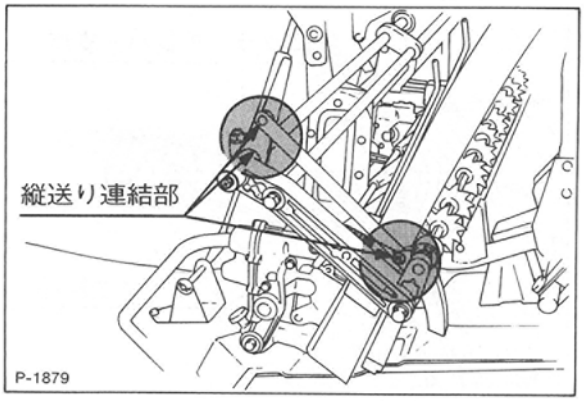

植付け
クラッチレバー支点
及び連結部
主クラッチ
レバー支点
及び連結部
P-0853

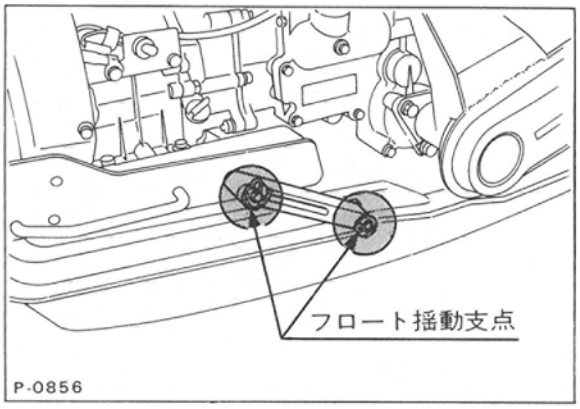

油圧作動アーム支点
P-1635

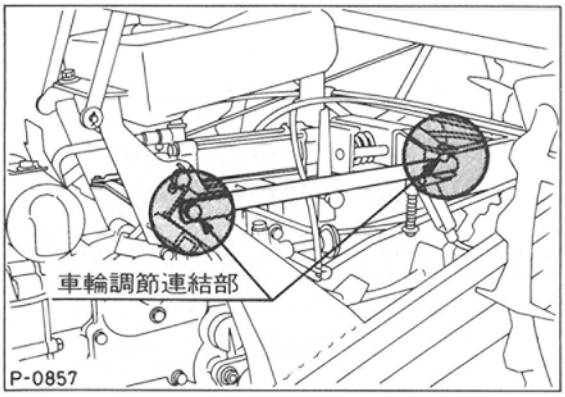

フロート揺動支点
P-1877

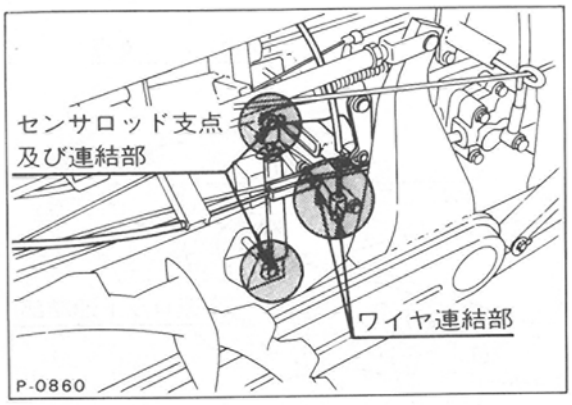

変速レバー支点
変速ロッド連結部
P-0859

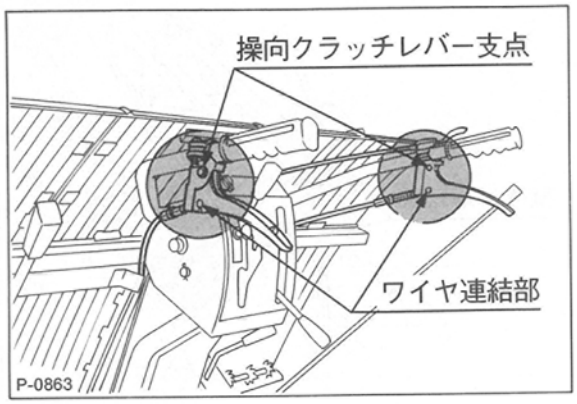

リンク支点
フロート揺動支点
P-1878

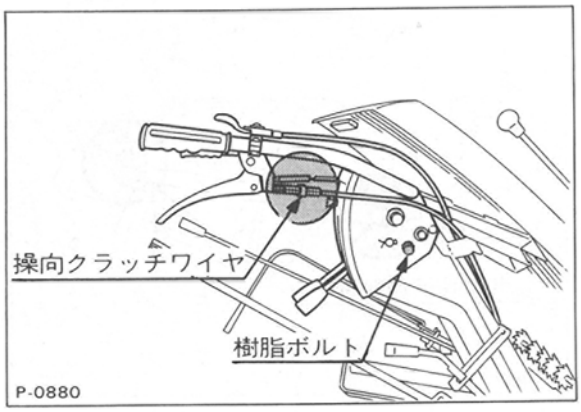

縦送り連結部
P-1879


フロート揺動支点
P-0856


車輪調節連結部
P-0857

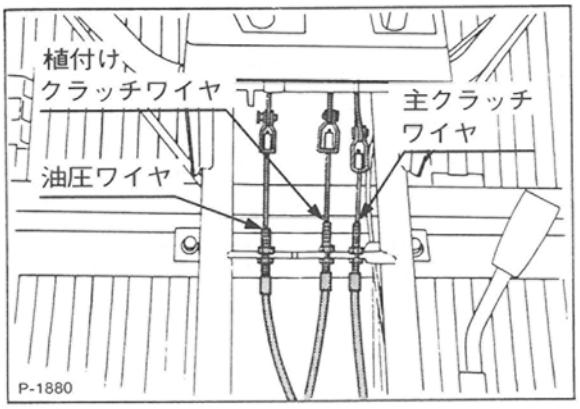


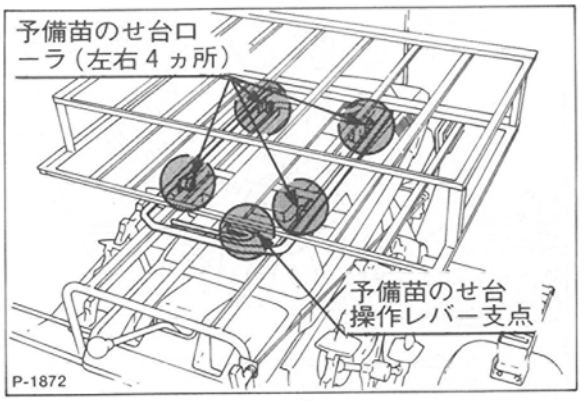


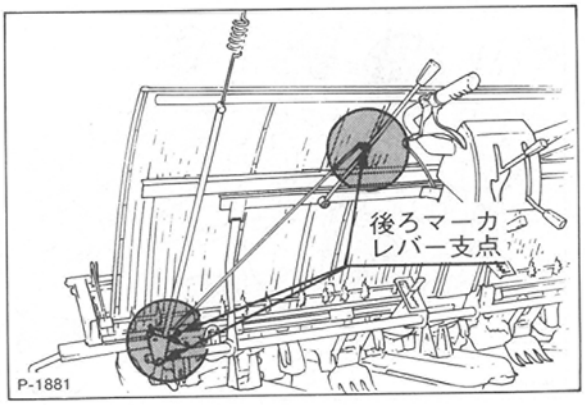


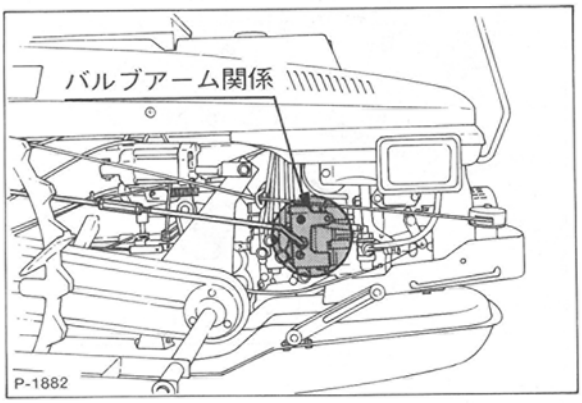
補　足

＊ワイヤに注油するときは，樹脂ボルトをゆるめて，ワイヤカバーを取外してから行なってください。









上手な運転のしかた

注　意

＊この取扱説明書前編の黄色のページ“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊田植機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる排気ガス中毒を避けるため，換気の不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転位置で行なってください。
＊スタータハンドルを引張るときは，手が人や物に当たらないか周囲をよく確かめてください。
＊変速レバーを“中立”，主クラッチレバーを“切”，植付けクラッチレバーを“機体固定”にしてからエンジンを始動してください。

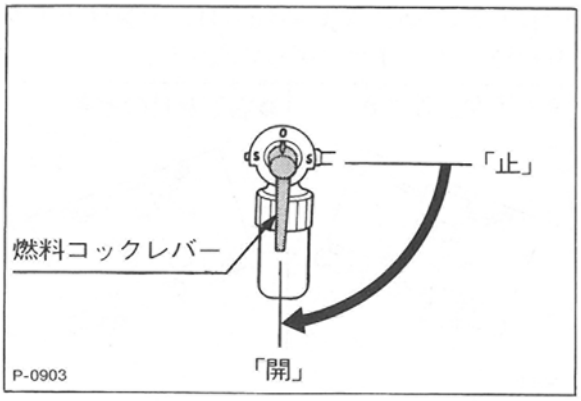
エンジンの始動と停止

■始動のしかた

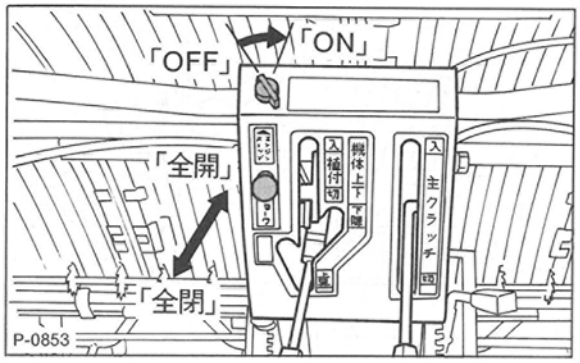
注　意

＊クラッチが入っていると，エンジンが始動すると同時に動き始め危険です。

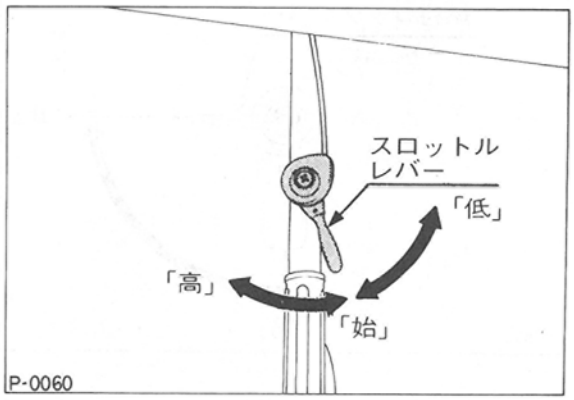
❶燃料コックレバーを**“開”**にします。



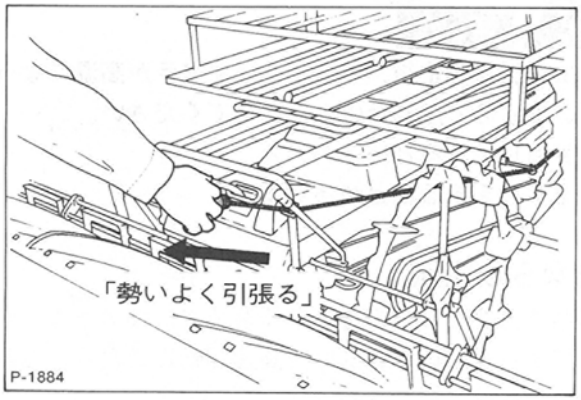
❷変速を**“中立”**にします。
❸主クラッチレバーを**“切”**にし，植付けクラッチレバーを**“機体固定”**にします。
❹エンジンスイッチを**“ON”**の位置にします。
❺チョークを操作します。
●エンジンが冷えているとき
→**“全閉”**
（**“つまみ”**を引く）
●暖まった状態から再始動するとき
→**“全開”**又は**“半開”**
（**“つまみ”**を引かない
又は少し引く）



❻スロットルレバーを**“始”**の位置に合せます。



❼スタータハンドルを勢いよく引張ると，エンジンが始動します。
●ロープは65㎝以上引出さないでください。
引きすぎると故障することがあります。



❽始動したら，エンジンの回転調子をみながらチョークを徐々に**“全開”**にします。（**“つまみ”**を戻す）

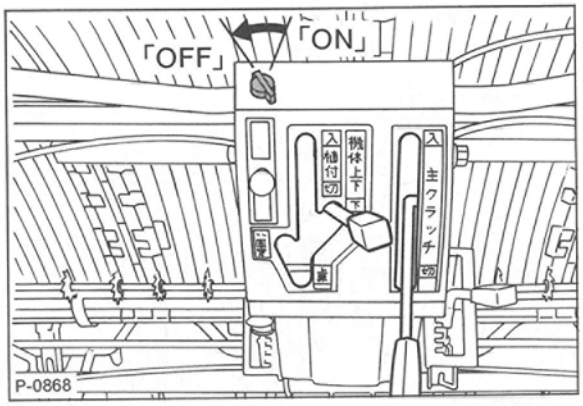
重　要

＊エンジンが始動しても急に高速にせず，5分程度暖機運転してから作業を始めてください。

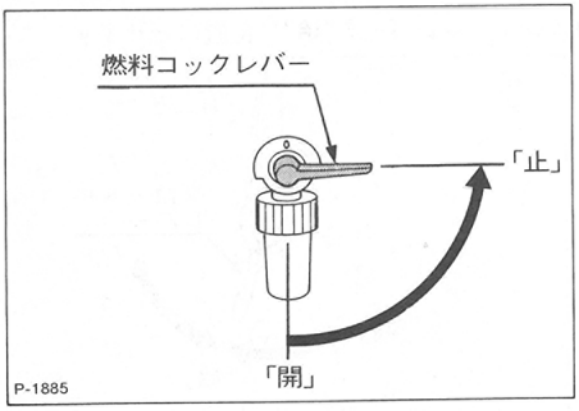
■停止のしかた

❶スロットルレバーを**“低”**にして，3分ぐらい運転します。

❷エンジンスイッチを**“OFF”**の位置にします。



❸燃料コックレバーを**“止”**にします。



重　要

＊エンジンを止めたら，燃料コックが完全に閉じているかを確認する習慣をつけましょう。

注　意

＊エンジン停止後，しばらくはマフラが高温になっていますので触れないようにしてください。
▶もし触れると……
ヤケドをすることがあります。

■ならし運転

田植機各部になじみをつけるために，10アールぐらい使用するまではエンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避けてください。

移動走行のしかた

注　意

＊この機械は公道走行はできません。移動はトラックなどにのせて運搬してください。
＊田植機のフロートが路面に当らないように，機体を上げた状態で走行してください。
＊苗のせ台を中央にして走行してください。
＊移動走行時は，苗を積まないようにしてください。
＊坂道では，絶対に変速しないでください。
＊走行時は必ず左右マーカを収納して周囲の人の妨げにならないようにしてください。

■発進のしかた

❶エンジンを始動したら，スロットルレバーを**“始”**と**“高”**の間ぐらいに回してエンジン回転を少し上げます。

❷変速レバーを**“移動”**位置にします。

❸植付けクラッチレバーを**“機体固定”**位置にします。

重　要

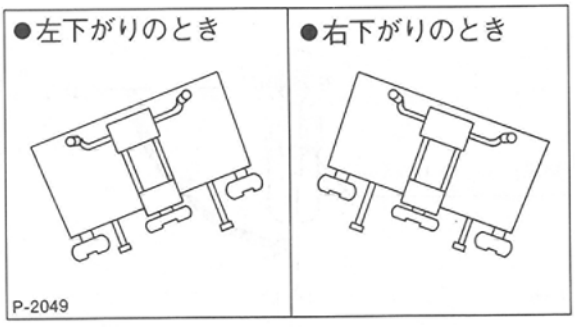
＊変速レバーが“移動”・“後進”のときは，植付けクラッチレバーは必ず“機体固定”にしてください。

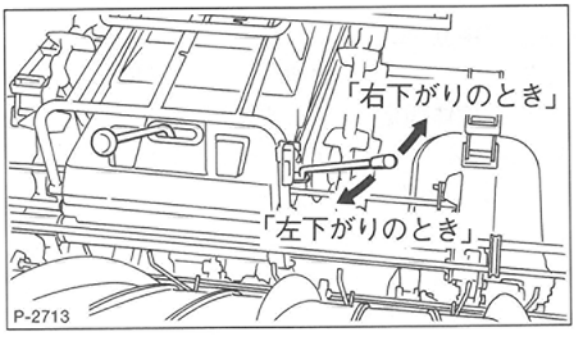
❹主クラッチレバーを**“入”**にすると，前進します。

重　要

＊レバー操作は，主クラッチを“入”にするときはゆっくり，“切”にするときは速やかに操作してください。

●走行時機体が傾いている場合は，センサモドシレバーを操作して水平に戻してください。



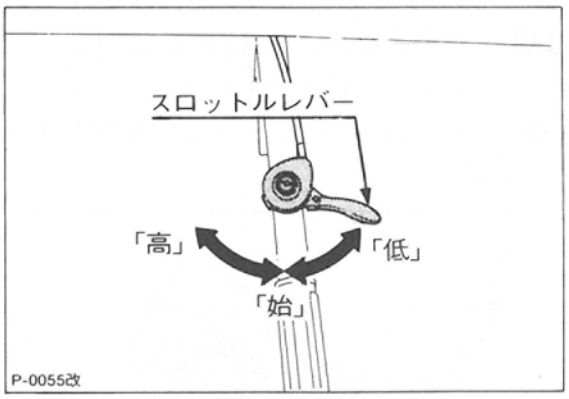


■停車のしかた

注　意

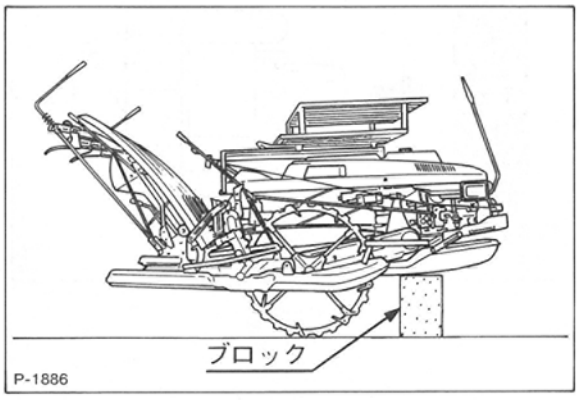
＊転落・転倒事故防止のため，機械は平坦で安定した場所に停車してください。

❶スロットルレバーを**“低”**の方に回し，主クラッチを切ると停車します。
❷停止ボタンを押して，エンジンを止めてください。



重　要

(1)路上で植付け部を回すときは，センタフロートの先端(センサロッドの位置)の下部に厚さ10～15㎝の箱又はブロックを置き，ハンドルを持上げて操作してください。
(2)植付けクラッチを入れると機体が下がり，植付け爪が路面に当たって故障の原因になることがあります。



トラックなどへの積込み・積降ろし

注　意

＊アユミ板は十分な強度と長さ，板幅(30㎝以上)のあるすべり止め付きのものを使用してください。
＊アユミ板のフックは荷台に段差のないように，またずれのないように確実に掛けてください。

■積込み・積降ろしのしかた

注　意

＊平坦な場所を選び，できるだけ助手の立合誘導のもとに行なってください。また，田植機の周囲に人を近づけないでください。
＊積込みは前進で，積降ろしは後進で行なってください。
＊アユミ板の途中では，絶対に主クラッチを切らないでください。機体が急降下し，非常に危険です。
＊アユミ板の途中では，絶対に操向クラッチを操作しないでください。機体が急旋回し，転倒して大事故につながります。

◆アユミ板の条件

長　さ	車の荷台高さの４倍以上
幅	30㎝以上
数　量	２枚
強　度	１枚が300㎏以上の重量に耐えうるもの

❶後ろマーカを収納し苗のせ台を機体中央位置にします。
❷機体を適当な高さまで上昇させ，固定します。
❸予備苗などの荷物は事前に降ろしておいてください。
❹積込み時は変速レバーを**“植付”**，積降ろし時は**“後進”**で移動してください。
❹主クラッチレバーを**“入”**にし，機体が水平な状態のままゆっくりと積降ろしてください。

◆トラックなどで運搬する場合

植付けクラッチレバーを**"切"**にして機体を下げ，機体が左右に傾かないように注意してください。

重　要

(1)植付け深さレバーを，いちばん"深"にセットしてください。

(2)予備苗のせ台には，ロープをかけないでください。

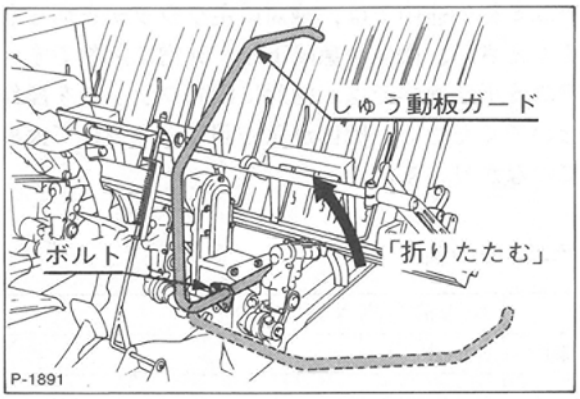
(3)トラックの荷台からはみ出すような積み方は，絶対にやめてください。

(4)後ろマーカの操作レバーをハンドルにしばって，倒れないようにしてください。

(5)フロートに無理な力をかけて，変形させないようにしてください。

(6)トラックや倉庫に収納するときは，左右のしゅう動板ガードとしゅう動板を折りたたんでください。

(7)燃料コックレバーを"止"にしてください。



●植付け作業を行なうときは必ずしゅう動板を元に戻して蝶ナットを締付けてください。

ほ場への出入り

注　意

＊農道・あぜとほ場の高低さが大きいときは，アユミ板を使用して出入りしてください。

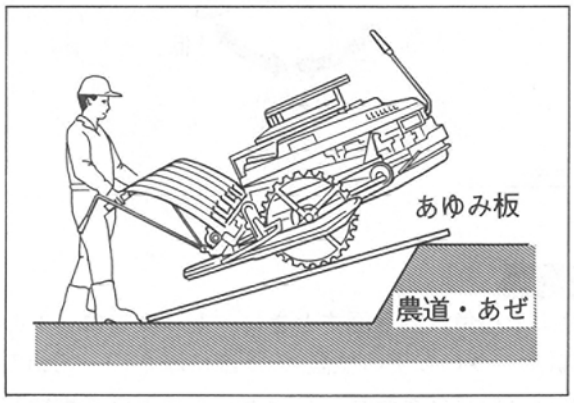
＊予備苗など田植機に荷物を積んでの出入りは危険ですので，必ず荷物はおろして出入りしてください。

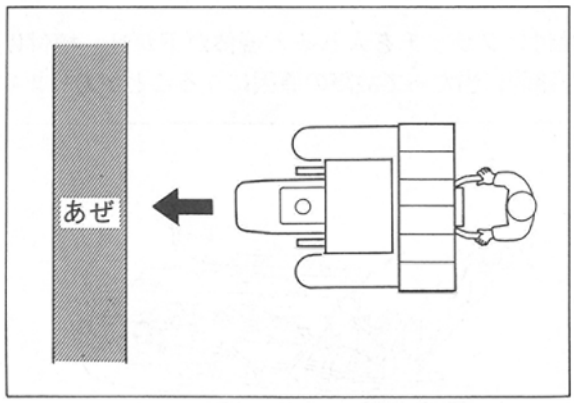
＊出入り途中での操向クラッチ操作は決して行なわないでください、

■ほ場への出入り，あぜ越えのしかた

(1)必ずほ場・あぜに直角に進行してください。

(2)ほ場へ入るときは後進で，出るときは前進で行なってください。



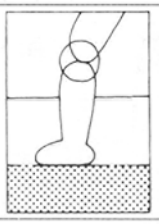
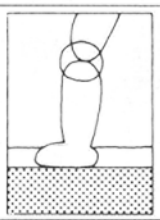
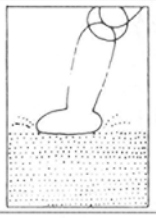
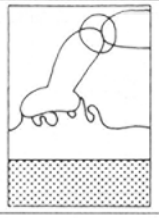
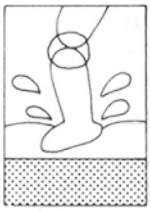
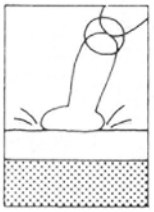
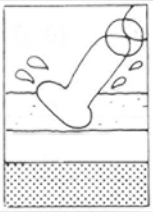
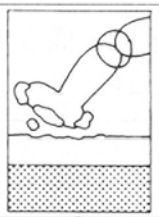
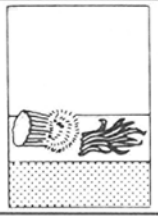


上手な植付けのしかた

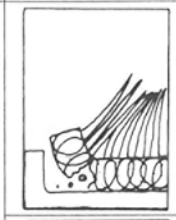
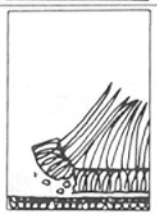
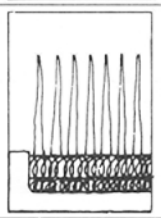
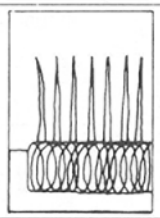
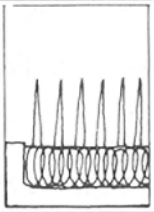
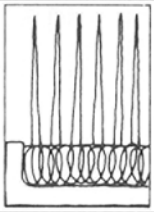
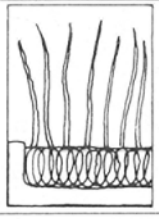
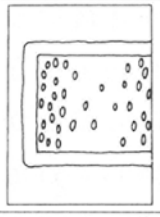
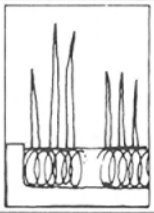
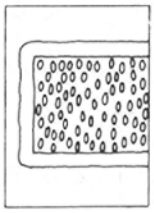
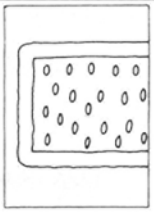
田植作業のほ場と苗の条件

上手な植付けを行なうには，ほ場の条件，苗の条件が良くなければ出荷状態でうまく使えないことがあります。次のような条件が予想される場合は事前に販売店，又はJA農協にご相談ください。

■ほ場条件

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	 ①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	 ②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	 ②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水　深	 ①水深の平均が3cmを越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排ワラ又は雑草が十分腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

■苗条件

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）			
苗　床		①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。		②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。
		③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。		④根の張り過ぎた，植付け爪のささりにくい苗。
		⑤苗床厚（マット厚）が2㎝以下の，薄い苗。		⑥苗床厚（マット厚）が4cm以上の，厚い苗。
草　丈		①草丈が8㎝以下の，短い苗。		②草丈が20cm以上の，長い苗。
素　質		①軟弱徒長苗。		②播種ムラのひどい苗。
		③成育ムラやハゲた部分のある苗。		
播種量		①催芽もみで，1箱当り250ｇ以上の，厚播きの苗。		②催芽もみで，1箱当り100ｇ以下の，薄播きの苗。

P-0280

育苗方法は各地区ごとに詳しい指針，指導要領がありますので，普及所や指導機関によくご相談ください。

田植作業前の準備

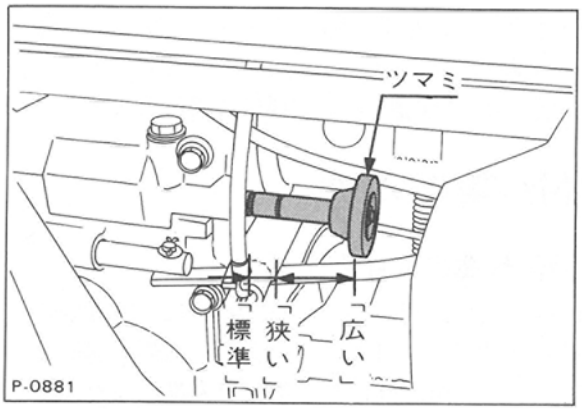
■株数の決定と調節

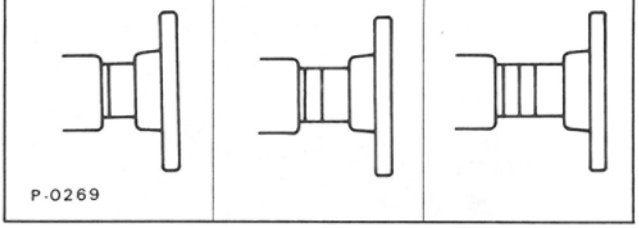
植付け株数は，株間調節つまみで選択してください。

重　要

＊株間調節つまみを操作するときは，次の要領で調節してください。

- ●主変速レバーを“中立”
- ●エンジンを“低速”
- ●植付クラッチレバーを“機体固定”
- ●主クラッチレバーを“入”

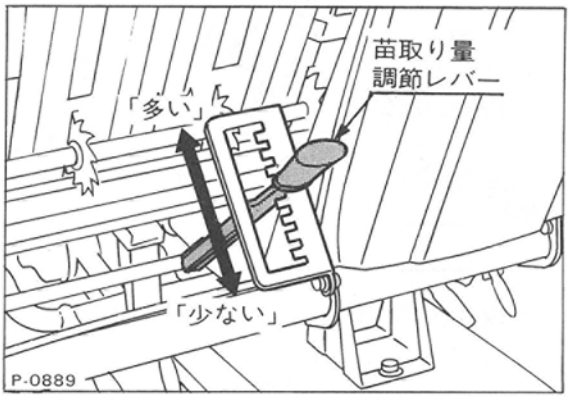


標　準	狭　い	広　い
株間16cm	株間13cm	株間18cm
1本目の溝が見える	2本目の溝が見える	3本目の溝が見える
		

●上記以外の株間用ギヤーはオプション部品として準備しています。(40ページ参照)

■苗の使用量

10アール当りの苗の使用量は，栽植密度と1株の植付け本数によって決まります。下記に示す表は，標準苗取り量(赤マーク位置)の目安です。
実際には，余裕をみて多いめに準備してください。
また，苗取り量を変えると必要な箱数も変わってきます。



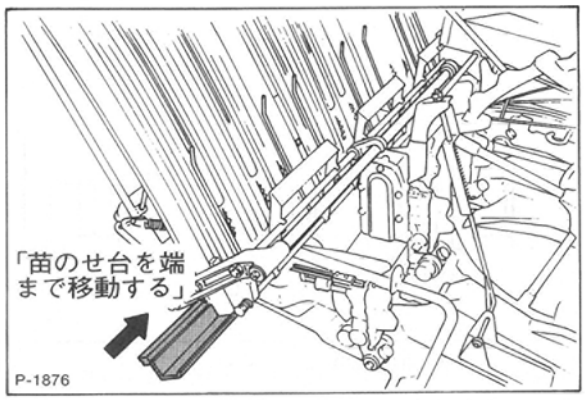
播種量は稚苗200～220ｇ，中苗100ｇを基準として算出してあります。

隣接条間(cm)	株間 13cm			株間 16cm			株間 18cm		
	3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所要苗箱数		3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所要苗箱数		3.3㎡当りの植付け株数	10アール当りの所要苗箱数	
		稚苗	中苗		稚苗	中苗		稚苗	中苗
28	90	18	37	75	15	30	65	14	27
30	85	17	37	70	14	30	60	13	26
33	80	16	36	65	13	29	55	12	26

■横送り量の調節

苗の種類(稚苗・中苗)により苗のせ台の横送り量を切替えることができます。

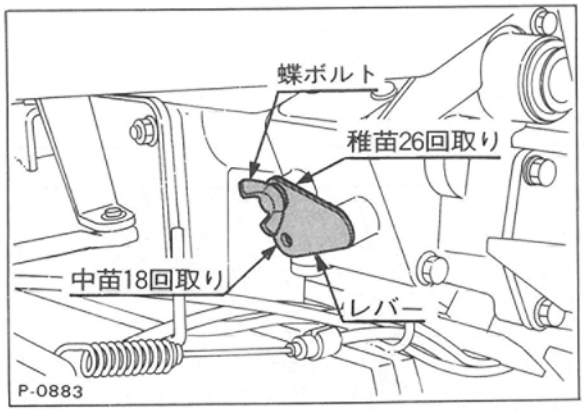
❶苗のせ台を右端又は左端に移動させます。

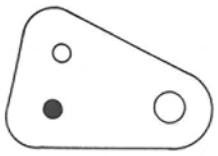
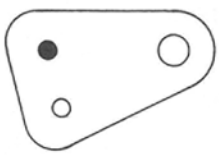


❷縦送り直後に植付けクラッチ，主クラッチを切ります。

❸エンジンを止めます。

❹横送りシフトアームの蝶ボルト締付け穴位置を変えることにより，切換えることができます。



18回取り(中苗用)	26回取り(稚苗用)
下の穴でボルトを締める	上の穴でボルトを締める
	

P-0615

重　要

＊誤って切換えて，縦送りのタイミングがずれたときは次のように調節してください。

❶変速を**“中立”**にします。
❷主クラッチ・植付けクラッチを切ります。
❸エンジンを始動します。
❹植付けクラッチ・主クラッチを入れます。
❺苗のせ台を右端又は左端に移動させます。
❻縦送り直後に主クラッチだけを切ります。
❼エンジンを止めます。
❽横送りシフトアームを中立(穴と穴の中間)にします。
❾植付けアームを手で回してクランクアームを真上より30°遅らせた位置まで動かします。
❿苗横送りを**“稚苗”**又は**“中苗”**に切替えます。

植付作業のしかた

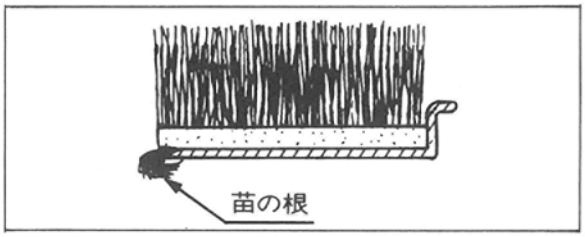
■植付作業の順序と方法

❶ほ場に入り，変速レバーを**“中立”**にします。
❷植付けクラッチレバーを**“入”**，主クラッチレバー**“入”**にし，苗のせ台を右端又は左端に寄せます。
❸縦送り直後に主クラッチレバー及び植付けクラッチレバーを**“切”**にし，植付爪を停止させます。

❹苗を苗のせ台にていねいにのせます。

重　要

＊苗すくい板の先端に苗の根がからみついて固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると欠株の原因になります。



❺植付け深さ調節レバー・苗取り量調節レバーを，希望する位置にセットしてください。

❻変速レバーを**“植付”**位置にセットします。
❼植付けクラッチレバーを**“入”**にします。
❽エンジン回転を**“高”**にして主クラッチレバーを**“入”**にし，植付けを開始してください。

■ローリング機構

左右の車輪位置の耕盤深さが異なっても，機体を常に水平に保つ装置がローリング装置です。
植付け作業中は，ローリング機構が働いて走行が安定します。

■安全クラッチ

注　意

＊安全クラッチが働いたら，速やかに主クラッチレバーを”切”にし，エンジンを止めて傷害物を取除いてください。

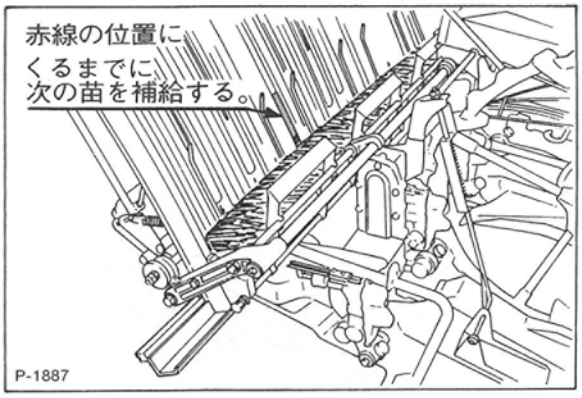
(1)植付作業中，植付部が停止し，ガッガッと高い音がしたときは安全クラッチが働いています。
(2)安全クラッチが作動して，ガッガッと音がする状態で作業を続けると，爪が破損したり，安全クラッチが摩耗して作動しやすくなり，植付けミスが起こりやすくなります。
(3)障害物を取除いたあと，植付け爪が軽く回動するか，しゅう動板に当らないか，爪が曲がったり破損していないかを確認し，植付けを再開してください。
爪が曲がったり，破損したときは交換してください。

補　足

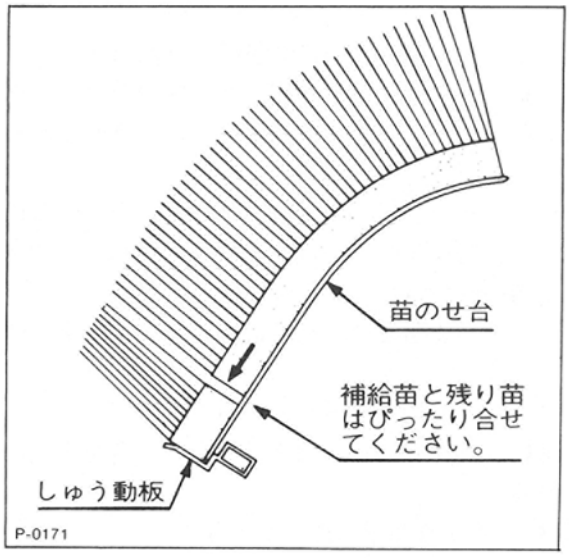
＊爪を交換したら，付属のゲージで苗取り量を合わせてください。（合わせ方は23ページ参照）

■苗の補給

苗のせ台の苗の残りが，赤線の位置にくるまでに苗を補給してください。

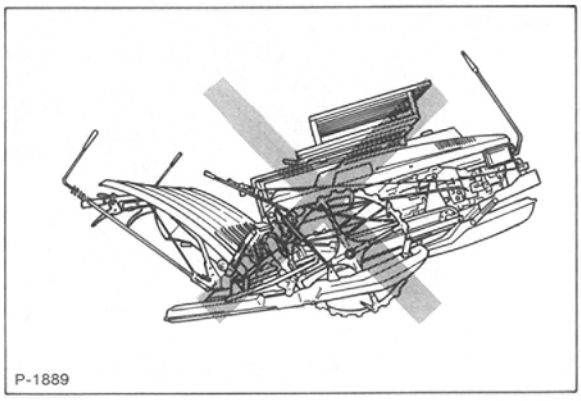


ほ場の長さを考えて，旋回のときに補給するようにしましょう。
(1)補給するときは，植付けクラッチレバーを**“切”**にした状態で，主クラッチを切ってください。
(2)補給するとき，苗のせ台を左右の端に移動させる必要はありません。
苗がまったく無いときだけ端に移動させます。
(3)補給苗はていねいに扱い，苗との境目がぴったり合うようにしてください。



注　意

＊苗補給の際，機体を上昇させたあと後方に倒すような方法は危険ですので絶対に行なわないでください。



■スライド式予備苗のせ台の使い方

予備苗のせ台は前後にスライドできるようになっており，３ヵ所で止めることができます。浅田では後の位置に深田では前の位置に止めて，バランスを調節できます。

❶操作レバーを引いて予備苗のせ台を手元に引き寄せます。
苗は下段に３段，上段に３段乗せられます。

❷苗は箱のまま乗せます。根張りの悪い苗は，スクイ板を苗箱に差し込んで予備苗のせ台に乗せておきます。

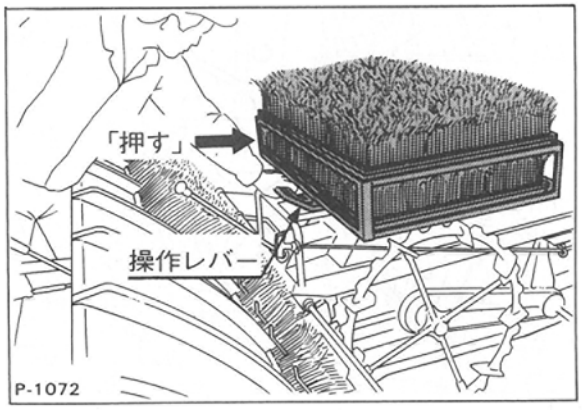
❸操作レバーを引いて予備苗のせ台を適当な位置に移動する。操作レバーを放すとロックレバーが働き，予備苗のせ台はロックされます。

予備苗のせ台の苗を苗のせ台に移す場合は，次の要領で行います。

❶主クラッチを切り機械を止める。

❷苗補給は操作レバーを引き予備苗のせ台を手元に引寄せる。
（運転位置から簡単に作業ができます。）

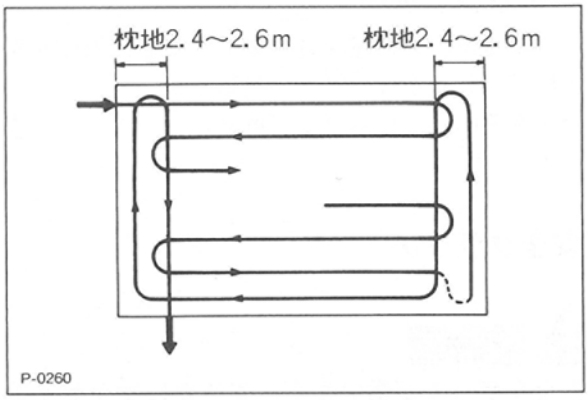
❸苗補給後は操作レバーを引き予備苗のせ台を元の位置に戻しておく。



■枕地のとり方

❶枕地はあらかじめ(約１往復分)残して植付けます。

❷植え始めは，ほ場の長辺方向のあぜにまっすぐな側から植付けます。



■旋回のしかたとマーカの使い方

田植機に慣れないうちは,次のことを守ってください。

❶旋回したいところで，主クラッチを**“切”**にし，マーカレバーを引いてマーカを収納する。

❷エンジンの回転を下げて，植付けクラッチを**“切”**にします。

❸旋回する側の操向クラッチを握り，主クラッチを入れます。

❹ハンドルを少し持上げながら旋回し，次の行程に機械を進めます。（マーカ跡が，機体の中心にくるようにします）

❺旋回が終ったら，一度主クラッチを切って，機体がまっすぐに**“すじ”**の方向に向いているかを確かめます。（旋回直後の機体の向いている方向が大切です）

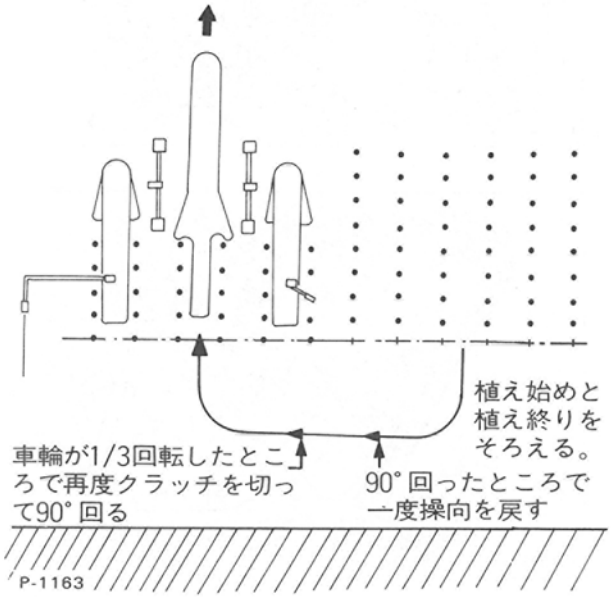
❻植付けクラッチを**"入"**にし，マーカレバーを降ろします。

❼主クラッチを入れ，エンジン回転を除々に上げます。

▶慣れないうちは小回りになり過ぎますので，ゆっくりと大きく旋回してください。

▶枕地を機械植えするときは，両端を充分残して旋回してください。6条植えですから1往復で3.6mに植えられます。

▶極深田のときは，植付けクラッチレバーを機体**"上昇"**まで引き，機体を上げて(リフティングターン)旋回します。



重　要

＊マーカを収納せずに旋回すると，マーカを破損したり曲げたりするので，忘れずに収納してから旋回する習慣をつけてください。

補　足

(1)水が深すぎるとマーカ跡が見えにくくなりますので，1～2㎝のヒタヒタ水程度にしてください。

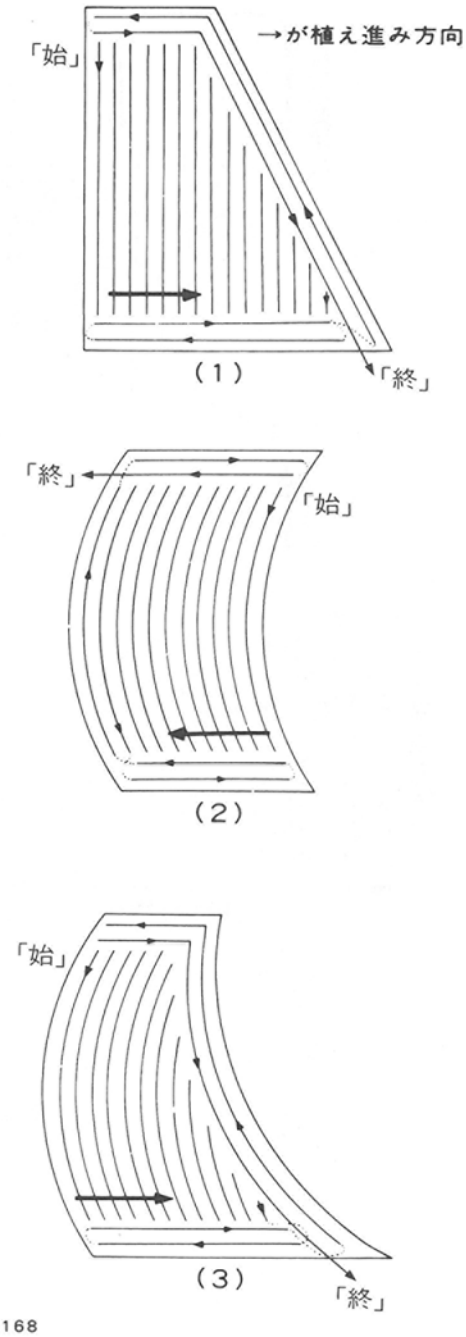
(2)旋回時は，ボンネット先端のマスコットがマーカ跡に合うように旋回してください。

◆植え進み方向(下図参照)

(1)植え進み方向は，ほ場の長辺方向のあぜのまっすぐな側から植えます。

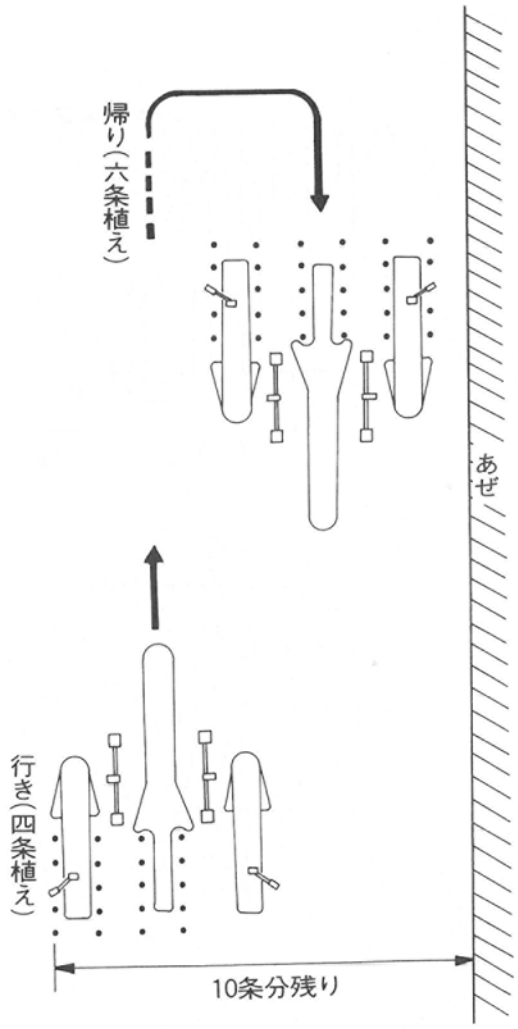
(2)両側のあぜが曲っているほ場では，内側から順に植えます。

(3)両側が曲った三角形のほ場では，曲りの少ない方から植えます。



■あぜぎわの植付け

あぜぎわでの植付けは，最終の植付け条数を使用機械の条数に合せることが必要です。そのときは，苗ストッパを使って下図のような植付け方法で植付けてください。

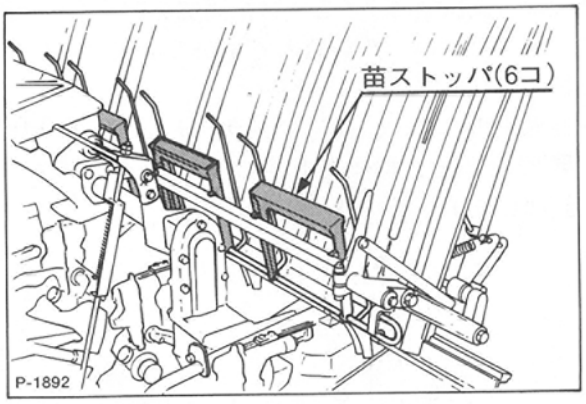


P-1164

◆苗ストッパの調節

苗を引上げて苗ストッパを下げ，苗ストッパに苗をのせると植付部への苗供給が止まり，植付けが停止します。

あぜぎわを植付ける際に使用してください。



P-1892

P-1893

■植付け作業中の調節

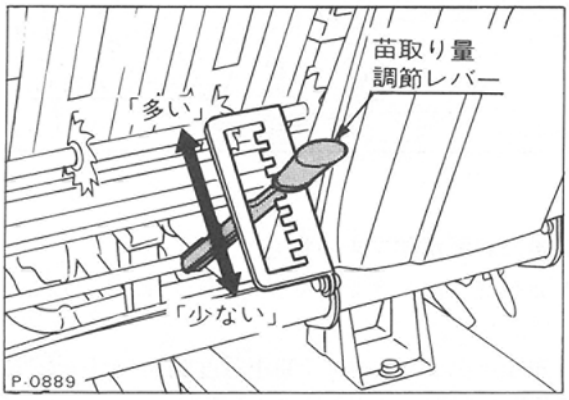
植付け作業を開始して植付け本数・植付け深さなどが希望どおりになっているかどうかをチェックし，希望どおりになっていなければそれぞれ調節してから連続植付けを行なってください。

◆苗取り量調節レバー

植付け本数の調節は，苗取り量調節レバーで行なってください。

“多い”……レバーを上方にセットすると，植付け本数が多くなります。

“少ない”……レバーを下方にセットすると，植付け本数が少なくなります。



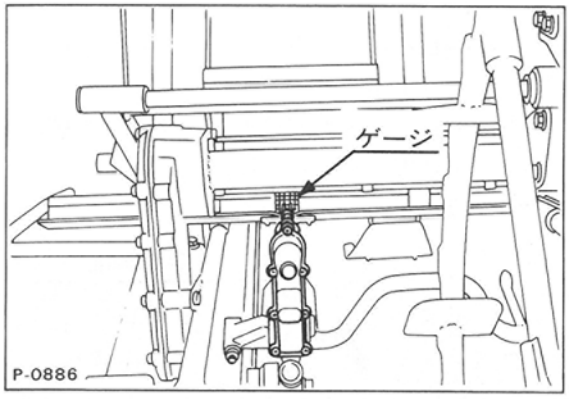
◆植付け爪ごとの植付け本数調節

注　意

＊植付け本数調節時は，エンジンを必ず止めて行なってください。

(1) 6本の植付け爪のうち，特定の爪の苗取り本数がいつも多いとか少ないとかの現象があれば，ゲージ合せをしてください。
ゲージ合せの結果，特に多い爪又は少ない爪があれば，連結軸の取付けナットをゆるめて，植付け爪が苗のせ台の中に入る量を調節してください。

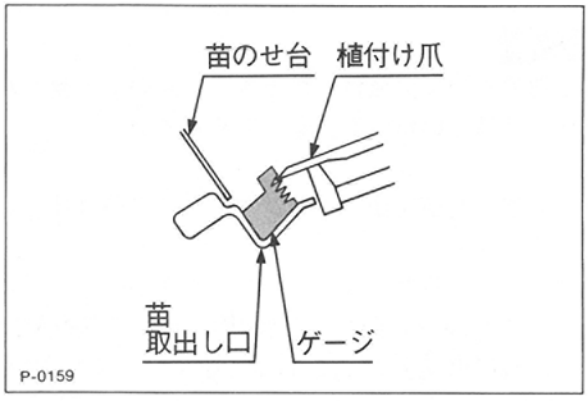
(2)植付けアームの爪取付けボルトが接触しないことを確認してください。

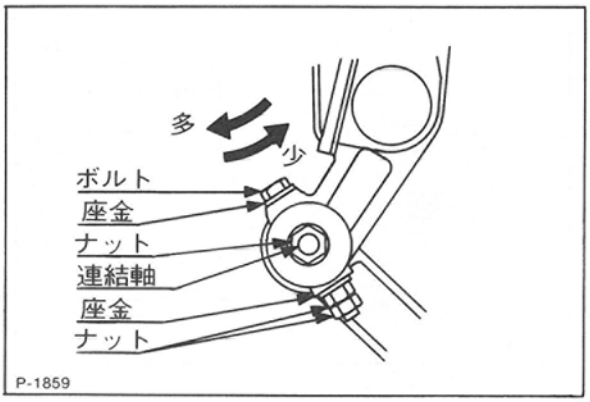


重　要

＊植付け本数は，育苗箱にまく種もみの量で決めるのが原則です。種まき時に十分検討してまき量を決めるようにし，たびたび植付け本数を調節することのないようにしてください。

＊最大取り量17㎜以上にしないようにしてください。苗取り量調節レバーを最も“多い”の位置にして，ゲージの一番上の溝に植付け爪先端を合わせてください。



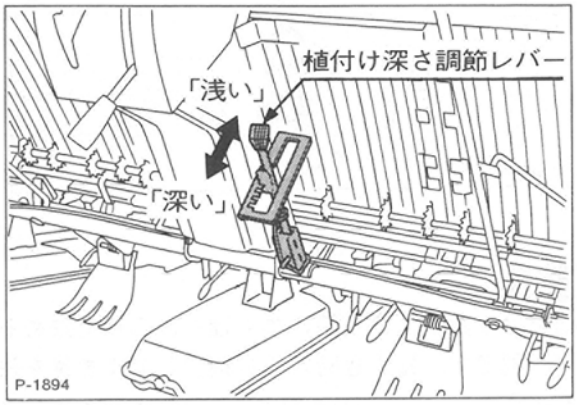


◆植付け深さ調節レバー

植付け深さの調節は，植付け深さ調節レバーで行なってください。

“浅い”……レバーを上方にセットすると浅植えになります。

“深い”……レバーを下方にセットすると深植えになります。



(1)植付け深さは，２～３㎝が標準です。

(2)草丈の長い苗は幾分深いめに，短い苗は浅いめに調節してください。

◆耕うん，代かきが十分でないほ場

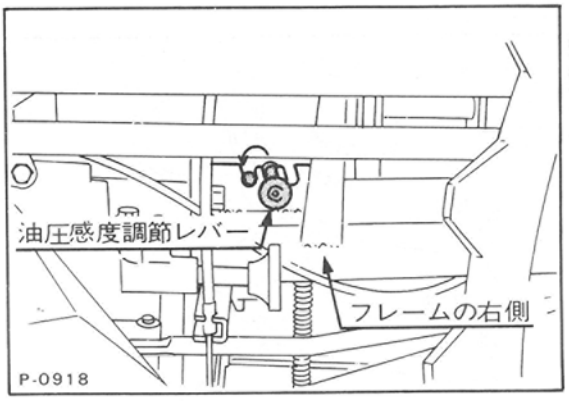
重　要

＊土塊のため良い植付けができませんので，耕うん，代かきはていねいに行なってください。

(1)茎の堅い健苗を使ってください。徒長苗は使わないでください。

(2)水深はできるだけ浅水にしてください。

(3)感知圧を高くし(油圧感度調節レバーを**“硬いほ場”**の位置にセットする)，整地を強くしてください。



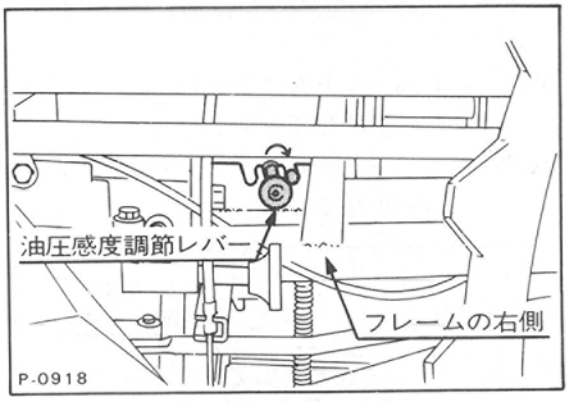
◆ほ場の表面が軟かすぎる場合

(1)水を落とし，植付け日を延ばして表面を硬くしてください。

(2)前進速度を遅くします。

(3)やや深い目(３～４㎝)に植付けます。

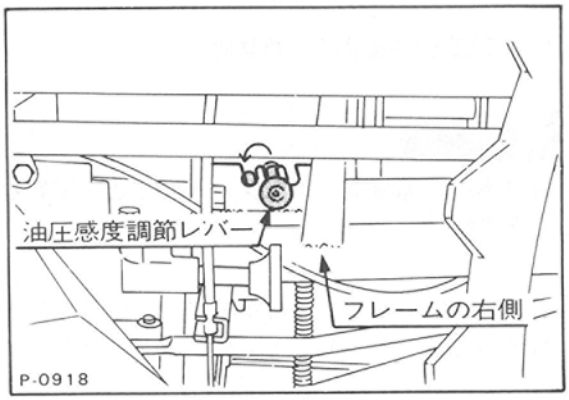
(4)感知圧を低くする。(油圧感度調節レバーを**“軟いほ場”**の位置にセットします)



◆ほ場の表面が硬すぎる場合

(1)表面を軽く代かきをして植えごろの硬さにしてください。

(2)感知圧を高くします。(油圧感度調節レバーを**“硬いほ場”**の位置にセットします)

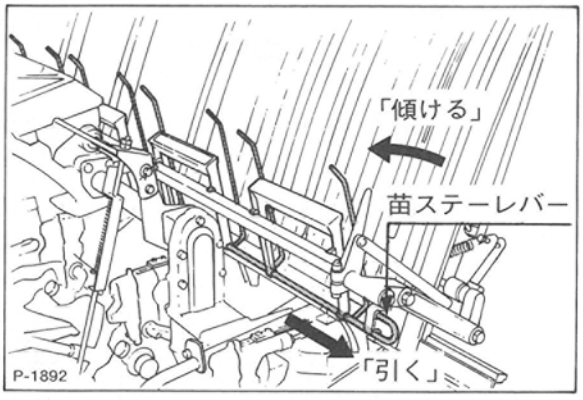


■苗ステーの調節

苗ステーは，苗床を軽く押えて苗の崩れ落ちを防止します。
次のような苗を使うときに使用してください。
(1)根張りの悪い苗
(2)苗床が薄く，崩れやすい苗

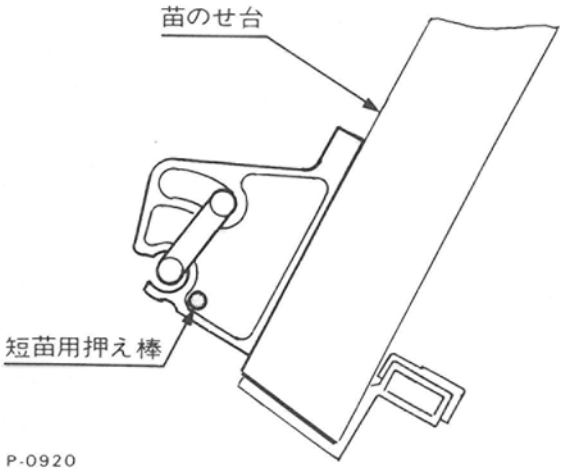
◆苗の取出し

❶苗のせ台の苗ステーレバーを引き，上方に傾けますと苗の取出しが容易です。
❷苗ストッパなど使用するときも同じ要領でお使いください。



◆短苗用苗押え棒(標準付属品)

植付け苗が10㎝以下のときは，標準付属の短苗用押え棒をご使用ください。
同封の平座金を入れ，割ピンで抜けないように取付けてください。



重 要

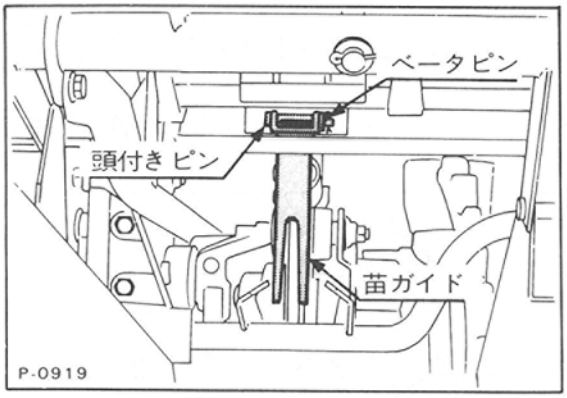
＊10㎝以上の苗には使わないようにしてください。植付け不良の原因となります。

■苗ガイドの取外し方

注 意

＊苗ガイドを取外すときはエンジンを必ず止めてから行なってください。

苗が長く徒長ぎみのとき，苗ガイドを取外してお使いください。
❶ベータピンを外します。
❷頭付きピンを抜きます。



■ピタリックスアームの取外し方

注　意

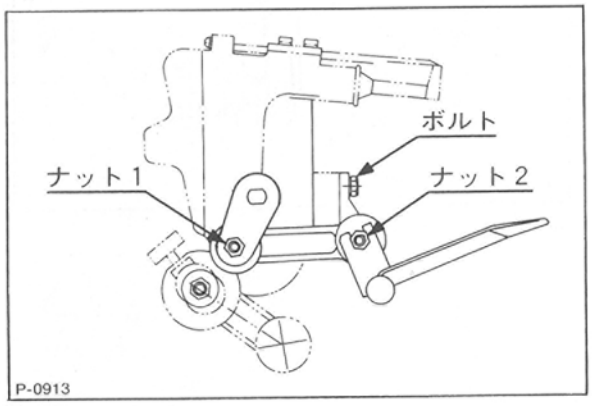
＊ピタリックスアームを取外すときはエンジンを止めてから行なってください。

深い水田や深水軟弱ほ場で使われると，ピタリックスアーム(土寄せ装置)が植付け姿勢を乱すことがあります。このようなときは，ピタリックスアームを取外してお使いください。

❶ナット１，ナット２をゆるめます。

❷ボルト左右4本を取外すとピタリックスアームが取外せます。

❸取外したボルト・ナットは大切に保管してください。

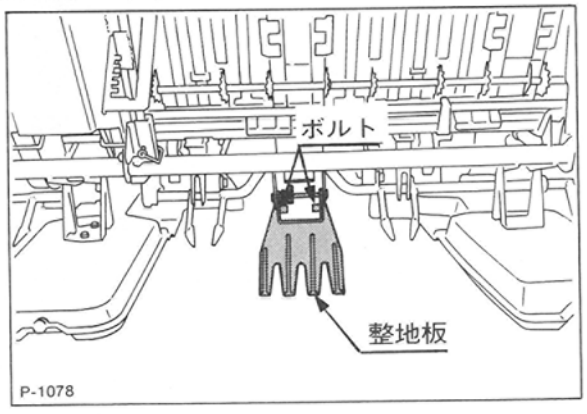


■整地板の調節

注　意

＊整地板を調節するときはエンジンを必ず止めてから行なってください。

(1)比較的硬いほ場で車輪跡の凹凸が気になる場合は，整地板を**“下げ”**てお使いください。



(2)深田で軟かいほ場では，整地板を**“上げ”**てお使いください。

■バランスウエイト

●ほ場の条件によって，機体のバランスが変ります。(予備苗のせ台の位置を変えることにより，**バランスが調整**できます。)

(1)耕深が15㎝以下のほ場

原則的にはバランスウエイトはいらない。ハンドル操作が重いときは，予備苗のせ台を**“前”**の位置にロックしてお使いください。

(2)耕深が15～25㎝のほ場

バランスウエイト(1)を取付けます。(標準装備で２個ウエイトが付いています)上側のウエイト２を外す。

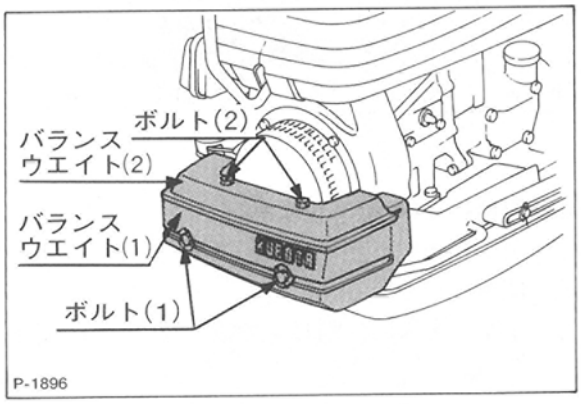
(3)耕深が25㎝以上のほ場

ウエイト(1)，(2)の２個使用する。

●ウエイトの着脱

ボルト(2)を２箇所ゆるめるとウエイト(2)が簡単に外せます。

ボルト(1)を２箇所ゆるめるとウエイト(1)が簡単に外せます。



田植機の簡単な手入れと処置

各部の点検と交換

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，販売店・JA農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。
定期点検表に従って必ず定期点検を実施してください。

注　意

(1)給排油・点検整備時は必ずエンジンを停止してください。
(2)作業中は火気厳禁です。
(3)機械は平坦な場所におき，安全を確認してから行なってください。

■点検・注油・調整一覧表

○：点検補給　△：交換

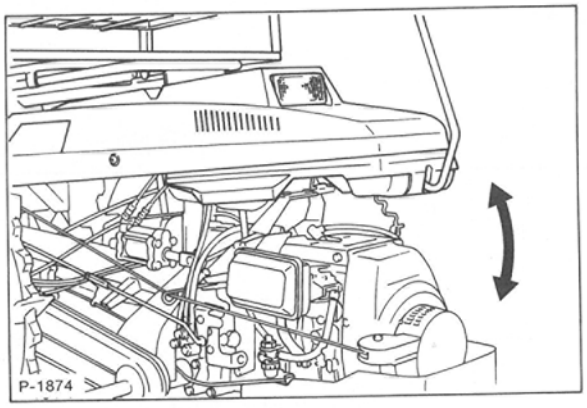
	項　　目	毎日作業前	10時間	50時間	100時間	備　　考	参照ページ
エンジン部	燃料	○					7
	燃料フィルタポットの掃除				○		32
	エンジンオイルの点検	○	△	△	△	クボタ純オイルG30 又はG20	31
	パイプ・ホース類の点検					２年毎交換	32
	エアークリーナエレメントの清掃			○	○	50時間毎清掃	32
	スパークプラグの掃除					毎シーズン始め	28
	マフラ部の清掃	○					
走行部	ミッションオイルの点検			△	△	クボタ純オイルM80B	32
	クラッチの調整					毎シーズン始め	29
植付け部	フィードケース	分解時にグリース補給				クボタスペアグリース (リチューム系)	販売店
	植付けケース	分解時にグリース補給					
	植付けアーム					毎シーズン始め クボタスペアグリース	29
	植付け爪の交換調整	爪の曲り，破損時交換調整					
その他	各ワイヤの点検調整					毎シーズン始め	29, 30

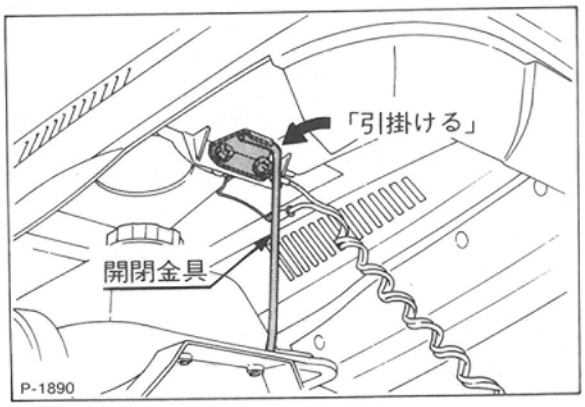
■ボンネットの開けかた

注　意

＊中に高温部があり，ケガをするおそれがあるので，点検・調整などでボンネットを取外すときは，エンジンを必ず止めてください。点検・調整後はボンネットを必ず取付けてください。
開いたまま作業をすると……
振動でボンネットを破損することがあります。

ボンネットの先端を持ってゆっくり上げてください。
内部のはめ込みが外れて開きます。
閉めるときは，先端をゆっくり押し込でください。





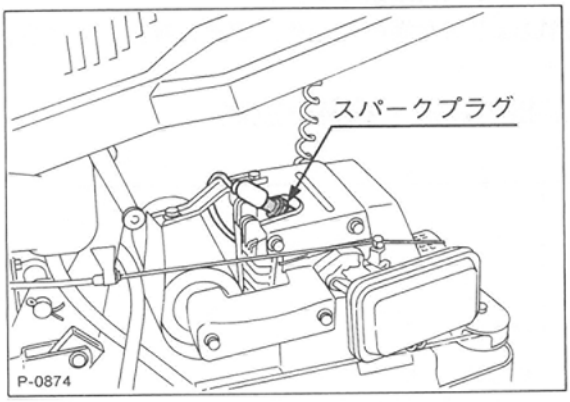
作業シーズン前後のメンテナンス

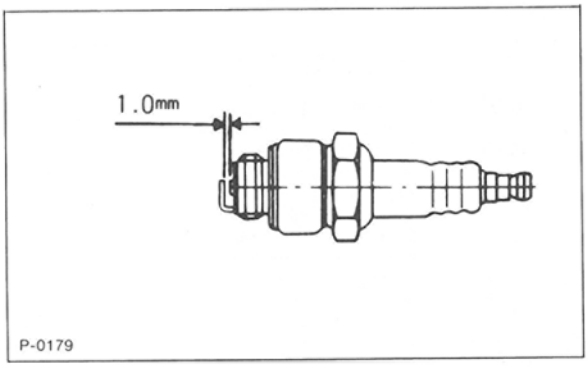
■スパークプラグの掃除

❶ボックススパナでスパークプラグを外してプラグに付着しているカーボンを取除き
❷電極のすきまが1.0㎜になるよう調整してください。

重　要

＊スパークプラグを取付けるときは最初手でねじ込み，その後ボックススパナで締付けてください。
最初からボックススパナで締付けると，シリンダヘッドのねじをつぶしてしまうことがあるので，十分ご注意ください。

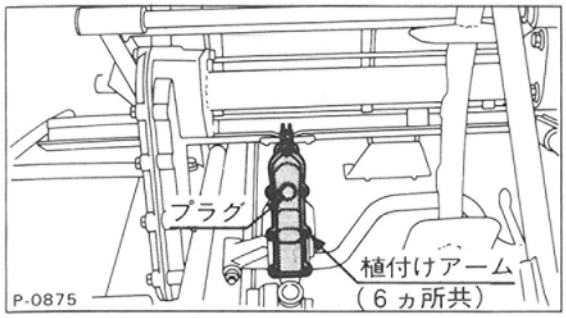


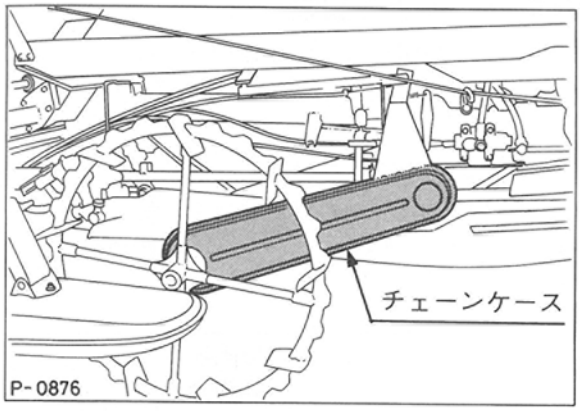


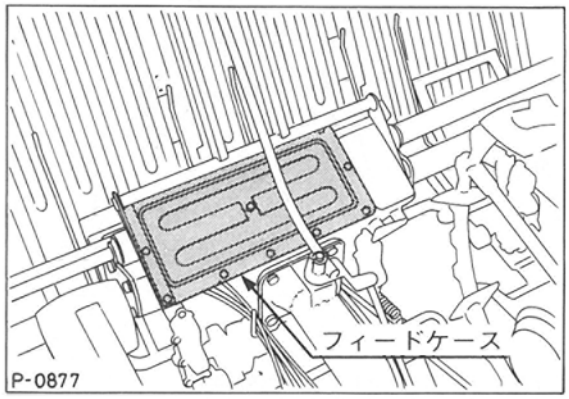
使用プラグ	NGK BP4HS-10　又は ND W14FP-UL10
品　　番	13742-6771-1

■グリースの補給

シーズンが終われば，次の箇所にグリースを補給してください。







各部の調整

注　意

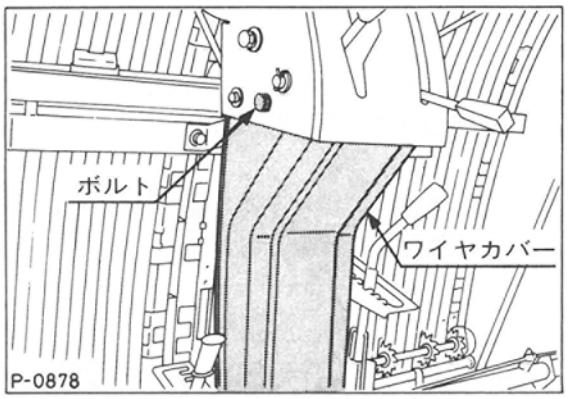
＊点検・調整するときは，必ずエンジンを停止してください。

＊機械は平たんな場所に置き，特に植付け部を他の物に当てないよう注意してください。

■主クラッチの調整

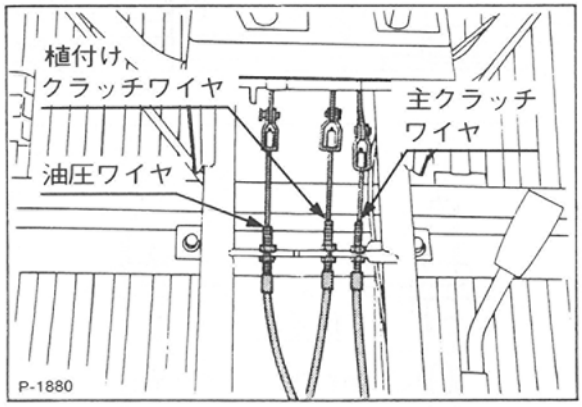
主クラッチレバーが**“切”**で確実にクラッチが切れ，レバーを**“入”**にしたとき確実に動力が伝わるように調整してください。

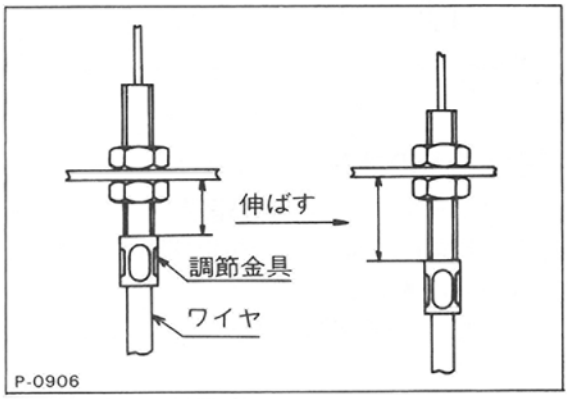
調整は，主クラッチワイヤの調節金具を伸縮させて行なってください。



重　要

＊ワイヤ調整などでワイヤカバーを外したときは，必ず各ワイヤに注油してください。



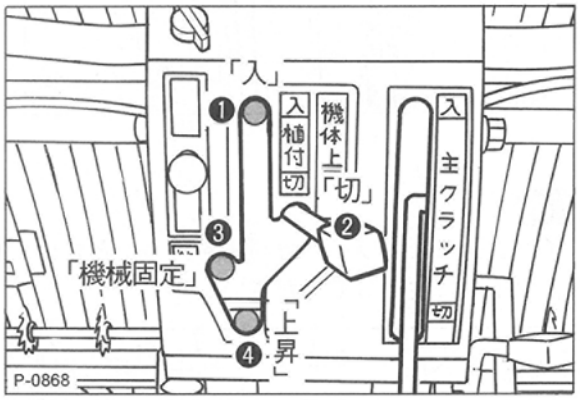


■植付けクラッチの調整

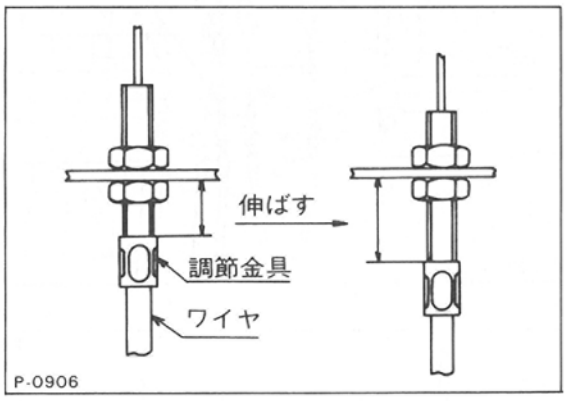
植付けクラッチレバーが**"切"**で確実にクラッチが切れ，レバーを**"入"**にしたとき，確実に動力が伝わるように調整してください。
調整は，植付けクラッチワイヤの調節金具を伸縮させて行なってください。

補　足

(1)調整は上のナットをゆるめ，下側のナットを２回転ごとにクラッチの"入""切"具合を確認してください。
(2)"切"の位置で確実に切れると，❸の"機体固定"及び❹の"上昇"位置でも確実に切れます。



P-0868

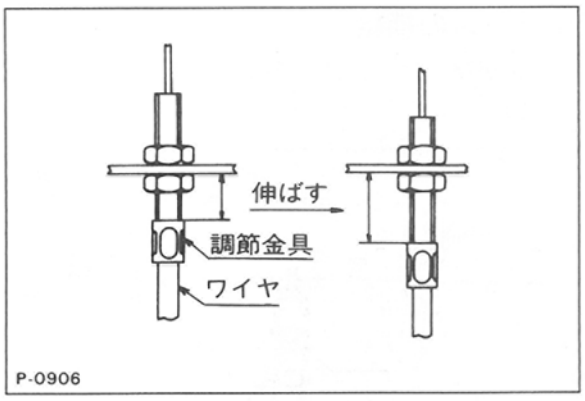


P-0906

■油圧ワイヤの調整

❶植付けクラッチレバーを**"機体固定"**にしたのに機体が下がる場合は，油圧ワイヤの調節金具をワイヤが伸びる方向に調整してください。
ただし，レバーが**"切"**では機体が下がることを確認してください。

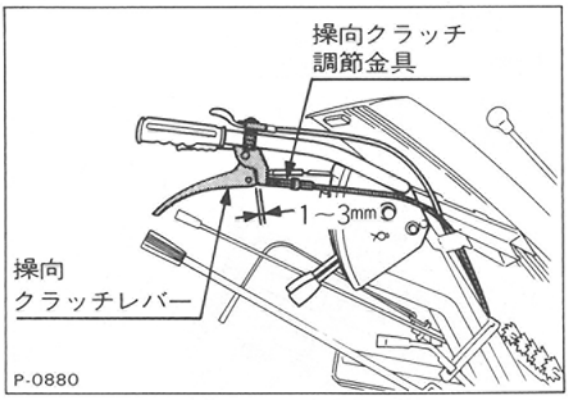
❷植付けクラッチレバーを**"機体固定"**にしたのに機体が上昇する場合は，油圧ワイヤの調節金具をワイヤが縮む方向に調整してください。
ただし，レバーが**"上昇"**では機体が上昇することを確認してください。



P-0906

■操向クラッチの調整

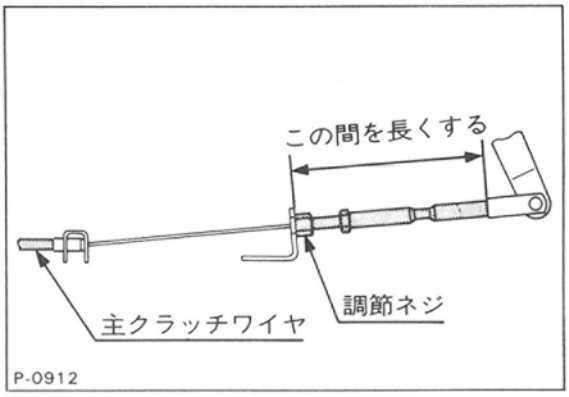
操向クラッチが切れにくいときや入りにくいときは，ロックナットをゆるめて調節金具で調整してください。
　切れにくいとき……左に回して長くする
　入りにくいとき……右にねじ込んで短くする
レバーの遊びは，**"入"**位置で１～３㎜程度に調整してください。



P-0880

■機体上昇けん制金具の調整

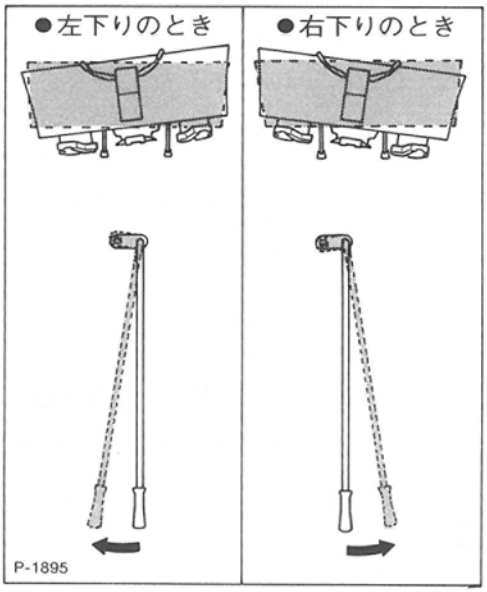
主クラッチレバーが**"切"**で機体が上昇するときは，ロックナットをゆるめワイヤ先端の調節金具を長くする方向に調整してください。調整後，主クラッチレバーが**"切"**で植付けクラッチレバーを**"上昇"**位置にすると，機体が上昇することを確認してください。



P-0912

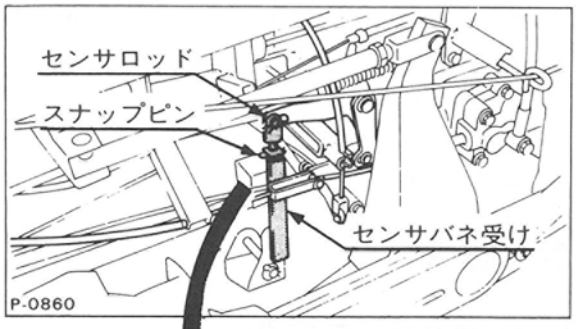
■ローリングの調整

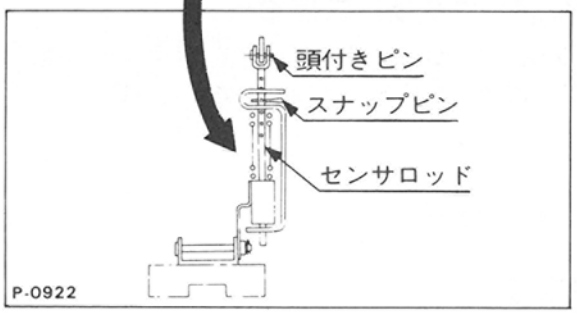
路上走行中や自動車への積降し前に機体が傾いているときは，下図のようにセンサモドシレバーを回動すると機体が水平になります。



■センサロッドの調節

油圧の感知がにぶいときは，センサロッドのスナップピンをはずし，下の穴に差し換えてください。
1度に何段も上の穴に差換えると泥押しの原因になりますので，よく確認して調節してください。





毎日作業前

■マフラ部の清掃

マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。
毎日作業前に点検し，きれいに取除いてください。

次の項目は**“運転前の点検について”**(７ページ)を参照してください。

※燃料
※エンジンオイル

10時間毎

■エンジンオイルの点検

“50時間毎”の項を参照してください。

50時間毎

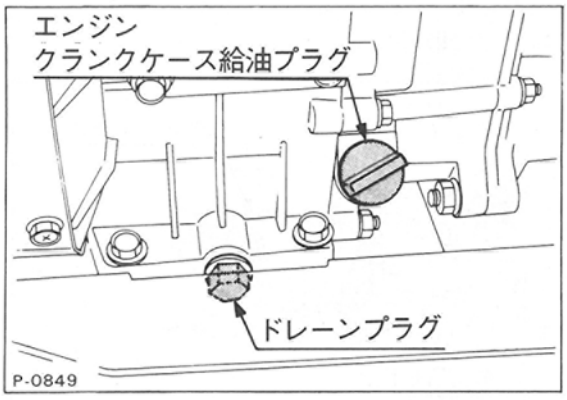
■エンジンオイルの交換

注　意

＊オイルを排出するときは，オイルが暖まっているのでヤケドをしないよう注意してください。

◆オイルの排出

暖機運転してから先ず給油プラグを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



◆オイルの給油

ドレーンプラグを締付け，給油口から適量給油し，給油プラグを締付けてください。

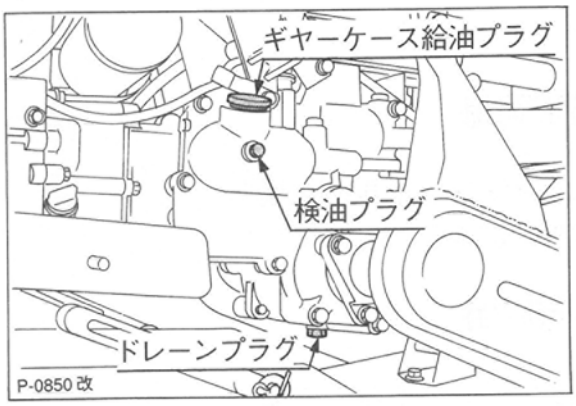
■ミッションオイルの交換

注　意

＊オイルを排出するときは，オイルが暖まっているのでヤケドをしないよう注意してください。

◆オイルの排出

暖機運転してから先ず給油プラグを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。

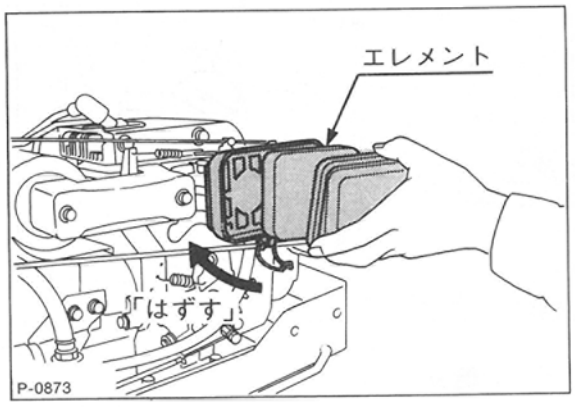


◆オイルの給油

ドレーンプラグを締付け，給油口から適量給油し，給油プラグを締付けてください。

■エアークリーナエレメントの掃除

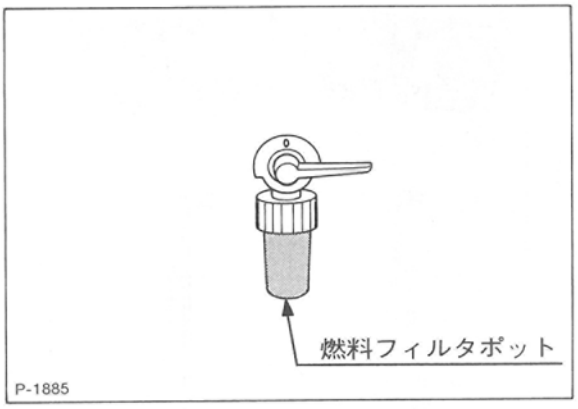
❶ウレタンエレメントを取出し，
❷エレメントを灯油か軽油でよく洗い，
❸エンジンオイルに浸して固く絞ってから，
❹元のように取付けてください。



100時間毎

■燃料フィルタポットの掃除

燃料コックレバーを**"止"**にし，燃料フィルタポットを外して，ガソリンできれいに洗浄してください。



2年毎

■燃料パイプの点検

注　意

＊燃料パイプが傷んでいると燃料漏れを起し危険ですので，常に点検しましょう。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても老化します。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときに新品と交換してください。
パイプ類や締付けバンドがゆるんだり傷んでいないか，常に注意してください。

都度の整備

■分解時にグリース補給

次の項目はクボタスペアグリース(リチューム系)を分解時，販売店に依頼して補給してください。

◆チェーンケース
◆フィードケース

重　要

＊フィードケースの分解時は，グリースの補給を忘れないこと。

■植付け爪の交換

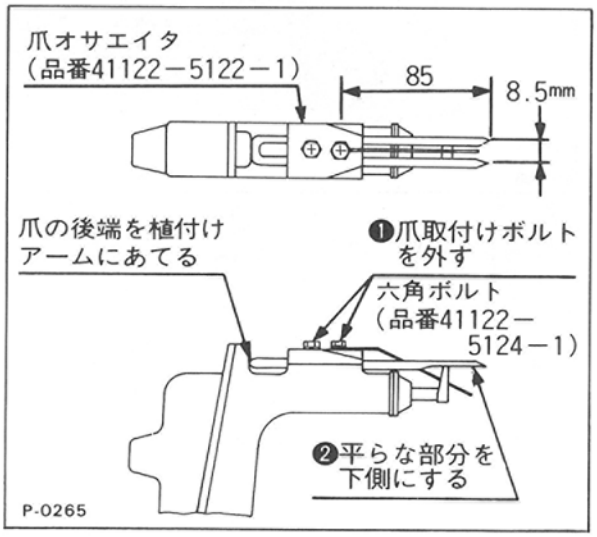
補　足

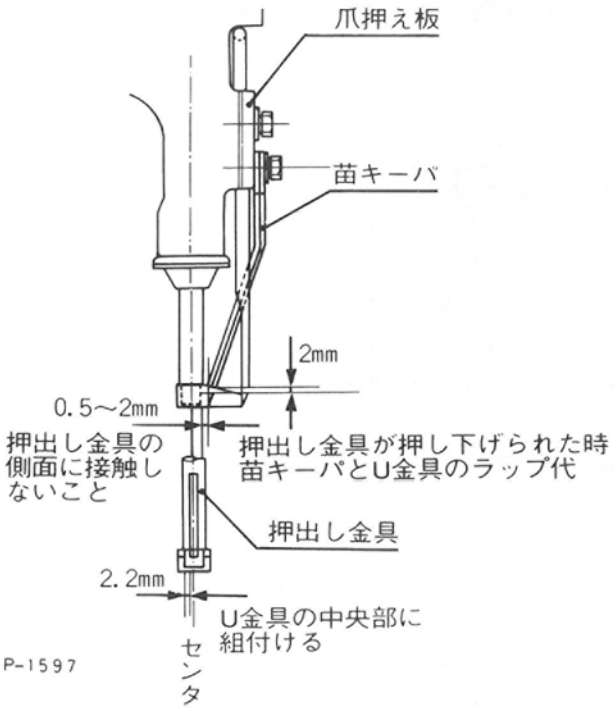
＊植付け爪，苗キーパは消耗品ですから，常に１セット予備として準備しておいてください。

コ ー ド No.	部品各称	数　　量
41122-5121-5	ケイ　ヅメ	6 個/ 1 台
41182-5123-1	ナエキーパ	6 個/ 1 台

植付け爪が摩耗すると植付け状態が悪くなるので，新しい爪と交換してください。
交換するときは，必ず苗キーパも同時に交換してください。

❶爪取付けボルトを外して爪を外します。
❷爪先端の平らな部分を下側にし，爪の後端を植付けアームに当るように取付け，ボルトを確実に締付けてください。





長期格納時の手入れ

注　意

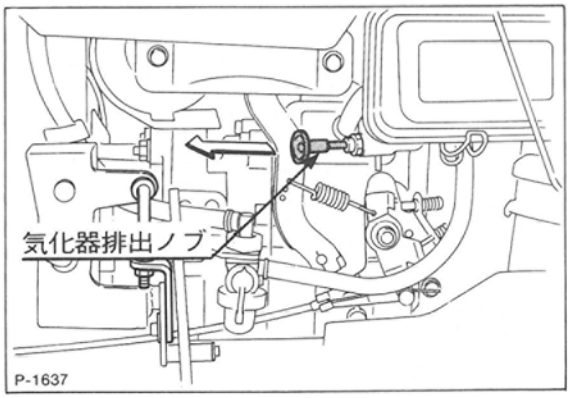
＊清掃する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊エンジンが過熱している間は，シートをかけないでください。火災の原因になります。
＊燃料抜取り時は火気厳禁。

■使用後の手入れ

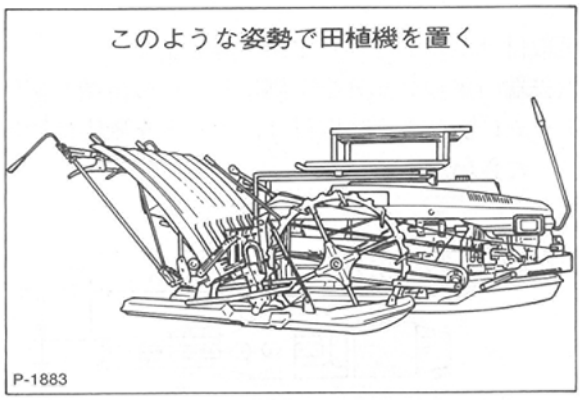
(1)各部に付いている土やゴミなどを洗い落し，水洗後は必ず水をふき取ってください。
(2)グリース塗付箇所にはグリースを，注油箇所には注油してください。
(3)植付け爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
(4)各部のゆるみを調べ，増締めをしてください。

■長期格納時

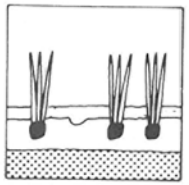
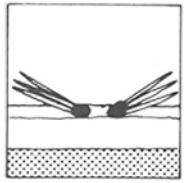
(1)格納は，直射日光や雨の当らない風通しの良い場所を選んでください。
(2)燃料タンク内はパイプなどを使用して抜取り，気化器内の燃料は，燃料コックレバーを**“止”**にして，気化器のノブを手で引いて，古いガソリンを全部抜取ってください。



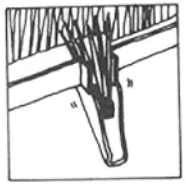
(3)植付け爪は苗取り直前の状態にし，植付部は下げた状態にしてください。
(4)各クラッチレバーは**“入”**の状態にしておいてください。
(5)スロットルレバーは**“低”**の方へいっぱい回しておいてください。
(6)スタータハンドルを引張って，圧縮(重く手ごたえがあるところ)で止めておいてください。
(7)田植機を保管する時や放置する時は，油圧を下げ車輪を上げますと機体は安定します。
(植付けクラッチレバーを**“切”**の位置におきます。)

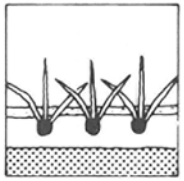
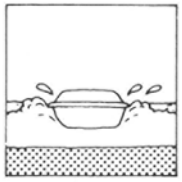
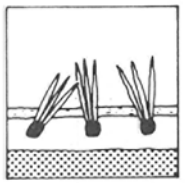


(8)フロートに無理な力をかけて，変形させないようにしてください。

不調の内容	原　　因	処　　置
 欠株ができる。	ほ場 機械 浮き苗。 機械 苗 植付け爪が苗を取らない。 機械 苗 縦送りが悪い。	●各原因について，下記の不調の内容の当てはまる項目を参照。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗にムラがある(播種ムラ)。	●ムラのない苗を使用する。
 浮き苗ができる。(苗が持上がる)	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	機械 植付け深さが浅過ぎる。	●植付け深さを深くする。
	機械 苗取り量が少ない。	●苗取り量を10㎜以上にする。
	ほ場 水が多過ぎる。	①水を少なくする。　②植付け速度を遅くする。
	ほ場 ほ場の土が軟らかい。	①ほ場を硬くする。　②植付け速度を遅くする。 ③植付け深さをやゝ深くする。
	苗 苗の根張りが悪い。	●根張りのよい苗を使う。
	苗 床土が砂質でバラけやすい。	●苗床に水分を与える。
	ほ場 ほ場の土が硬い。	●植付け速度を遅くする。
植付け爪が苗を取らない，又は，苗取りが不十分。	機械 苗取り量が少ない。	●苗取り量を多くする。
	苗 播種量が少な過ぎる。	●苗取り量を多くする。
	苗 播種ムラ，生育ムラがある。	●苗取り量を多くする。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の底面を切落とす。切れない苗は使用しない。
	機械 植付け爪の間隔が広(狭)過ぎる。	①爪間隔を確認する。(23ページ参照)②新しい爪と交換する。
	機械 植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗 苗床が軟らか過ぎる。	●苗床を乾かす。
	機械 縦送りが悪い。	●不調の内容“縦送りが悪い”の項を参照。

P-0301

不調の内容	原　　因	処　　置
苗の縦送りが悪い。	苗 苗床の幅が広過ぎる。	●育苗箱の中で横方向に振動を与え，幅を狭くする。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の底面を切落とす。切れない苗は使用しない。
	苗 根が張り過ぎている。	●苗床の下に伸びた根を切る。
 苗取出し口に苗が溜まる。	苗 苗床が軟らか過ぎ，苗を十分に取らない。	●苗床を乾かす。
	苗 苗床が軟らか過ぎたため，横送りによって苗床が変形している。	●苗床を乾かす。
	苗 苗床がバラけて，土がしゆう動板のしゆう動面に溜まる。	●苗床に水分を与える。
	機械 植付け爪の摩耗で，苗が十分取れない。	●新品と交換する。
	機械 植付け爪が２本そろっていない。	●新品と交換する。
	機械 植付け爪の間隔が広過ぎる。又は狭過ぎる。	●爪の間隔を確認する。(23ページ参照)
	苗 苗床の根が張り過ぎている。	●苗床の下に伸びた苗を切取る。
	苗 苗床が厚過ぎる。	●苗床の厚みが４cm以下の苗を使用する。
フロート通過跡に泥水が流れ込み，植付けた苗が倒れる。	ほ場 ほ場の土が軟らか過ぎる。	①ほ場を硬くする。 ②バランスウエイトを使って，前バランスにして使う。
	ほ場 水が多過ぎる。	①水を少なくする。 ②植付け速度を遅くする。 ③土寄せ装置を取外す。(特に不調のとき)

不調の内容	原　　因	処　　置
苗のせ台から苗がずり落ちる。	苗　苗床が薄過ぎる。	●苗床の厚さが２cm以上の苗を使う。 ●苗ステーを苗床の厚さにあわせて調節する。
	苗　苗床が軟らか過ぎる。	●苗床を乾かす。
 植付けた苗がバラける。(まとまりが悪い)	機械　押出し金具が苗を十分押出さない。	●押出しバネを交換する。
	機械　植付け爪の間隔が広過ぎる。	●爪の曲がりを伸ばし，間隔を確認する。(23ページ参照)
	機械　植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗　苗床が乾き過ぎている。	●苗床に水分を与える。
	苗　苗の根張りが悪い。	①根張りのよい苗を使う。②植付け速度を遅くする。
	ほ場　ほ場が硬過ぎる。	●ほ場を軟らかくする。
	機械　植付け速度が速過ぎる。	●植付け速度を遅くする。
	機械　苗取り量が少な過ぎる。	●苗取り量を多くする。
	苗　根張りの悪い苗を，ぬらし過ぎている。	●苗床を乾かす。
	苗　苗と苗との合わせ目がぴったり合っていない。	●苗補給をていねいに行なう。
	機械　苗ガイドに土がつまっている。	●土を取除く。
 フロートが泥を押す。	ほ場　ほ場の土が軟らか過ぎる。	●ほ場を硬くする。
	機械　フロートの後部が沈み過ぎる。	●バランスウエイトを取付ける。
	機械　感知圧が高過ぎる。	●感知圧を調節する。
 植付けた苗の姿勢が悪い。	機械　押出し金具が苗を十分押出さない。	●バネを交換する。
	機械　植付け爪が摩耗している。	●新品と交換する。
	苗　苗の根張りが悪い。	●根張りのよい苗を使う。
ピッチングが発生する。	機械　感知圧が低く過ぎる。	●感知圧を調節する。

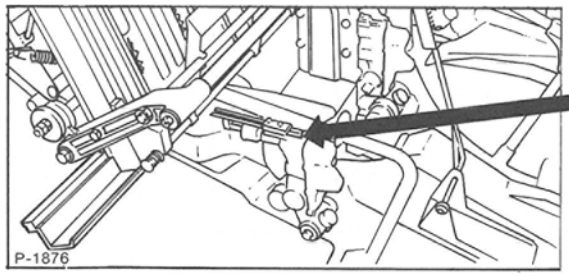
P-0301

付　表

主要諸元

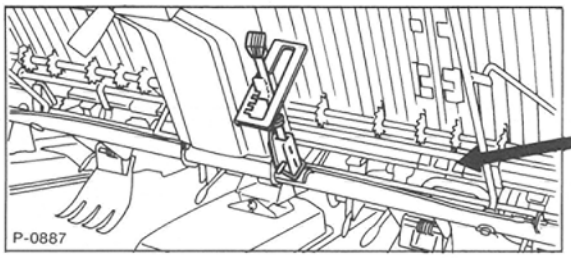
型式			S_1-65HD
機体寸法	全長(mm)		2420
	全幅(作業時)(mm)		1850(2150)
	全高(mm)		1000
重量(kg)			188.5
エンジン	名称		クボタGS150-2PN
	形式		空冷4サイクル1気筒立形ガソリンエンジン
	総排気量(c.c.)		147
	出力/回転速度(PS/rpm)		2.7/1800(最大出力3.7)
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量(ℓ)		3.2
	点火方式		無接点式マグネト点火
	始動方式		手元リコイルスタータ
走行部	車輪調節		油圧式(上下，ローリング)
	車輪	種類	ゴムラグ車輪
		外径(mm)	660
	変速段数(段)		前進2・後進1
植付部	植付条数(条)		6
	植付条間(cm)		30
	植付株間(cm)		13　16　18
	植付株数(株/3.3㎡)		85　70　60
	植付深さ(cm)		1.0～4.5(6段)
	一株本数調節方法		苗横送り(2段)及び，縦かき取り量(8～18mm)
植付速度(m/秒)			0.3～0.6(スリップ率15%)
路上走行速度(km/h)			3.6
作業能率(分/10a)			39
苗の条件	苗の種類		マット苗
	草丈(cm)		10～25
	葉令(葉)		2～4.5
予備苗とう載数(箱)			6
型式検査(国検)合格番号			——
安全鑑定適合番号			1403001

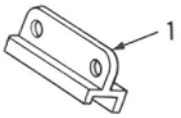
主な消耗部品一覧表



P-1911

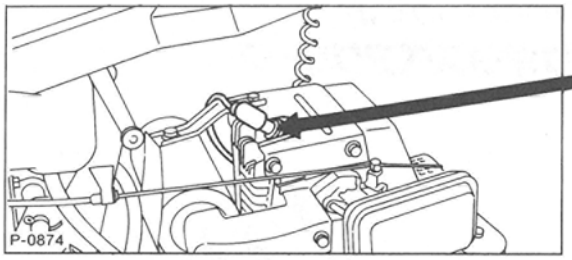
図番	品　　名	品　　番	個数
1	ナエキーパ	41182-5123-1	6
2	ケイヅメ	41122-5121-5	6

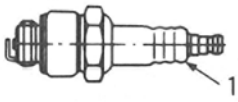




P-1911

図番	品　　名	品　　番	個数
1	ウケ	44366-4613-3	7





P-0179

図番	品　　名	品　　番	個数
1	スパークプラグ	13742-6771-1	1

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- ●保証書　1
- ●取扱説明書　1
- ●植付け爪(K13)　6
- ●苗すくい板　1
- ●ゲージ　1
- ●じょうご　1
- ●苗おさえ　1
- ●割りピン　2
- ●平座金　2
- ●ウエイト2　1
- ●ボルト　2
- ●平座金　2
- ●車軸ピン　4
- ●スナップピン　4
- ●平座金　4

- ●工具
  - 8-10スパナ　1
  - 12-14スパナ　1
  - 14-17スパナ　1
  - 12ボックススパナ　1
  - 17-12ボックススパナ　1
  - ボックススパナ21　1
  - ⊕⊖ドライバ　1
  - プライヤ　1
  - 工具袋　1
  - 12ソケットレンチ　1

オプション部品

品　番	品　名	備　考
41272-9313-0	エンチョウナエノセダイ	延長苗のせ台
41182-9340-0	カブマ18-25アッシ	株間18cm，25cm
41332-9711-0	ロッド(チェーンケース)	
41382-9850-0	ウエツケヅメ，キット(I13)	ステンレス板爪
44411-9111-0	ナエスクイイタ	

クボタ純オイル

オイルは **クボタ純オイル** をお使いください

オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切な田植機の寿命を縮めることがあります。
お買い求めは，販売店又はJA農協へご用命ください。

●エンジンには…

■クボタ純オイル

G30又はG20W20
(ガソリン・灯油エンジン用)

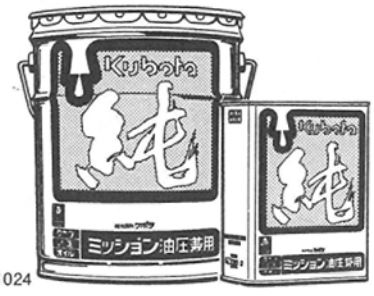
Z-1022

20ℓ　4ℓ

●田植機本体には…

■クボタ純オイル

M80B
(ミッション・油圧兼用)

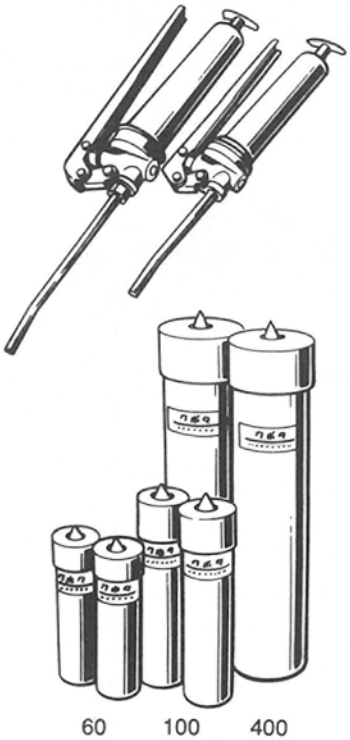


Z-1024

20ℓ　4ℓ

●グリースアップには…

■クボタスペアグリース



Z-1026

60　100　400

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 41382－9151－4

Kubota